

科目名 (英)	ホスピタリティ I (Hospitality I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜・2限
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	日本のサービス産業の現状やホスピタリティ重要性について説明でき、自分の生活において求められる行動を説明できる。						
到達目標	テキストに記載されている各項目について 1) ホスピタリティの重要性、歴史、語源について説明できる 2) 個人と個人、個人と地域社会、組織と顧客、組織と社員(従業員)、組織と地域社会など各領域で実践されているホスピタリティについて考え自分の意見が言える 3) 自分の経験したホスピタリティについて振り返り、考え、説明することができる 4) 他人の経験したホスピタリティの説明を聞き、自分の意見を説明することができる						
評価方法と基準	1) 提出物 2) 振り返りテスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性	学んだことを振り返る
2		演習	日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性	学んだことを振り返る
3		演習	ホスピタリティの歴史と文化	学んだことを振り返る
4		演習	ホスピタリティの歴史と文化	学んだことを振り返る
5		演習	これまでの振り返り	学んだことを振り返る
6		演習	サービスとホスピタリティの語源	学んだことを振り返る
7		演習	サービスとホスピタリティの語源	学んだことを振り返る
8		演習	ホスピタリティの定義	学んだことを振り返る
9		演習	ホスピタリティの定義	学んだことを振り返る
10		演習	これまでの振り返り振り返り	学んだことを振り返る
11		演習	ホスピタリティの5領域	学んだことを振り返る
12		演習	ホスピタリティの5領域	学んだことを振り返る
13		演習	ホスピタリティ演習	学んだことを振り返る
14		演習	ホスピタリティ演習	学んだことを振り返る
15		演習	まとめ	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
ホスピタリティ・コーディネータ教本				

科目名 (英)	コミュニケーションスキル (Communication Skill)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜・3限
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ現場で仕事をする際、あらゆる人間関係が発生し、それを円滑にしていくスキルが求められる。そのため、言語によるコミュニケーションの概論について理解し、その技術(聞く、話す、読む、書く)をポイントを理解したうえで実践することができる。また、コーチとしての専門的知識や、コーチに求められる対他者の知識、対自己の知識について考え実践することができる。また、コミュニケーションスキルアップ検定の学習を通し、社会の一員として必要なコミュニケーションスキル(基本的会話スキル、自己表現スキル、社会的スキル)とサービスマインドについて説明ができる。						
到達目標	コミュニケーションスキルアップ検定に合格する。 言語でのコミュニケーションについて理解し、実践できる。						
評価方法と基準	1) 出席状況 50% 2) 提出物 40% 3) 検定合否 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コミュニケーション技法とは について説明できる	
2		演習	コーチに求められる知識とスキル ブレインストーミング、KJ法 について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
3		演習	コーチに求められる知識とスキル 聞き上手の技法 について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
4		演習	対他者力を磨こう(コミュニケーションスキル) 話し上手の技法 について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
5		演習	対他者力を磨こう(コミュニケーションスキル) ブラインドウォーク を体験する	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
6		演習	対他者力を磨こう(リーダーシップスキル) 読み上手の技法① について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
7		演習	対他者力を磨こう(プレゼンテーションスキル) 読み上手の技法② について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
8		演習	対他者力を磨こう(ファシリテーションスキル) 書き上手の技法 について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
9		演習	対他者力を磨こう(ファシリテーションスキル) テーマ探しの技法 について説明・実践できる	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
10		演習	対他者力を磨こう(ファシリテーションスキル) コミュニケーション技法のまとめ	学習箇所について事前に読み、 ワークブックに考えを記入する
11		演習	対他者力を磨こう(その他の対他者スキル) コミュニケーションスキルアップ 基本的対話スキル について説明できる	テキストを読み返す
12		演習	対自己力を磨こう(コーチの学び) コミュニケーションスキルアップ 自己表現スキル について説明できる	テキストを読み返す
13		演習	対自己力を磨こう(コーチのセルフマネジメント) コミュニケーションスキルアップ 社会的スキル について説明できる	テキストを読み返す
14		演習	対自己力を磨こう(さまざまな思考法や伝達法) コミュニケーションスキルアップ サービスマインド について説明できる	テキストを読み返す
15		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
リファレンスブック コミュニケーションスキルアップ検定テキスト				

科目名 (英)	英会話	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
	(English Conversation)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 火曜3限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	2017年より(株)国際教育社において専門学校での英語教育(基礎英語、ビジネス英語、医学英語)に携わる。						
授業の学習内容	滋慶学園の英語教育に長期に渡って携わり、Active Learningに取り組んできたネイティブの英語教員が、学生が専門分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的としたコミュニケーション主体の授業を行う。						
到達目標	海外研修や将来のキャリアなどで役に立つ基本的な英会話や英語表現を習得する。						
評価方法と基準	評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	クラスオリエンテーション L1 挨拶が出来るようになる	教科書の復習
2		講義	L3 個人の情報を聞きだすことが出来るようになる もう一度言ってもらえるようお願い出来る	教科書の復習
3		講義	L6 好き嫌いを表現出来るようになる 相手に質問で返すことができるようになる	教科書の復習
4		講義	L8 相手に意見を聞くことが出来るようになる 相手に意見を伝えることができるようになる 誘いに返答することが出来るようになる	教科書の復習
5		講義	L11 相手について褒めることが出来るようになる 褒め言葉に返答出来るようになる	教科書の復習
6		講義	L7 L13 時間を尋ねることが出来るようになる 時間を伝えることが出来るようになる 相手の日課について質問が出来るようになる 自分の日課について説明出来るようになる	教科書の復習
7		講義	L14 継続して質問することが出来るようになる	教科書の復習
8		講義	L19 L20 ある場所の位置について質問出来るようになる ある場所の位置を説明出来るようになる 道案内が出来る、道順を尋ねることが出来るようになる	教科書の復習
9		講義	L21 L23 ある行動の頻度について尋ねることが出来るようになる ある行動の頻度を説明出来るようになる	教科書の復習
10		講義	L28 ある食べ物について質問出来るようになる ある食べ物を説明出来るようになる	教科書の復習
11		講義	L29 L30 過去の出来事について話すことが出来るようになる 過去の出来事について尋ねることが出来るようになる	教科書の復習
12		講義	L32 予定について質問出来るようになる 予定について説明出来るようになる	教科書の復習
13		講義	習った内容の振り返り	教科書の復習
14		講義	定期試験に向けて復習する	
15		講義	定期試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
Speak Now 1				

科目名 (英)	キャリアプランニング I (Career Planning I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	上野唯
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜・3限
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員						
授業の学習内容	夢に向かって知識・技術を学ぶための、有意義な学校生活・私生活を送るため、学園・学校の考えや規則を理解し、職業人・社会人に求められるマインドやマナーなどこれからの授業で身に付けていくスキルの大切さを説明できるようにする。						
到達目標	在学期間で、将来の夢をかなえるための有意義な時間の過ごし方を理解し実践できる。 1) 学校のこと(理念、目的、課程、学則、規程、サービス) 2) プロになるために、社会人になるために身につけるべきこと 3) 私生活のこと(体調管理、社会的マナー)						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	建学の理念 が説明できる プロへのビジョン が説明できる	学んだことを振り返る
2		講義	あいさつ、コミュニケーションの重要性 身だしなみ ポイントが説明できる	学んだことを振り返る
3		講義	教科課程、単位とシラバス、教育法規 が説明できる	学んだことを振り返る
4		講義	学則、試験規定、届出、SSC が説明できる	学んだことを振り返る
5		講義	ホスピタリティとは が説明できる	学んだことを振り返る
6		講義	パソコン、インターネット メールの使い方 を学ぶ意義が説明できる	学んだことを振り返る
7		講義	健康診断、健康管理 の重要性や 煙草マナー、ドラッグ 危険性が説明できる	学んだことを振り返る
8		講義	個人情報、カード、悪徳商法 ストーカー の危険性・対応が説明できる	学んだことを振り返る
9		講義	雇用形態 や社会人としての身だしなみ が説明できる	学んだことを振り返る
10		講義	電話マナー、手紙マナー 接遇マナー が説明できる	学んだことを振り返る
11		講義	食事マナー が説明できる	学んだことを振り返る
12		講義	吊辞マナー が説明できる	学んだことを振り返る
13		講義	国際マナー が説明できる	学んだことを振り返る
14		講義	社会制度、国民年金、健康保険 税金 が説明できる	学んだことを振り返る
15		講義	情報収集に関すること が説明できる	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
Handbook of Lifestyle				

科目名 (英)	キャリアプランニングⅡ (Career Planning Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	上野唯
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜・3限
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員						
授業の学習内容	夢に向かって知識・技術を学ぶための、有意義な学校生活・私生活を送るため、自分の行動を振り返り課題をみつけ今後の生活プランを立てる。長期的な目標、短期的な目標をもとに行動計画をたてる。業界について調べ、また、仲間と情報共有し知識を深めていく。						
到達目標	在学期間で、将来の夢をかなえるための有意義な時間の過ごし方を理解し実践できる。 1) 自分の生活・行動を振り返り課題を見つけることができる 2) 課題をもとに今後の生活について計画をたてることができる 3) 1),2)について説明することができる 4) 業界について調べまとめることができる 5) 4)について説明することができる						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の流れ ガイダンス	
2		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
3		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
4		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
5		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
6		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
7		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
8		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
9		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
10		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
11		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
12		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
13		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
14		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
15		講義	生活の振り返りと課題の発見 目標・行動計画 業界探求	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	スポーツ生理学 I (Exercise Physiology I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	藤本 敏彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜・4限
教員の略歴	1990年鹿屋体育大学修士課程修了後、東北大学にて勤務 准教授						
授業の学習内容	スポーツ時に起こる身体内での生理現象を、神経系、骨格筋系、内分泌系、呼吸循環器系、発達発育に分けて学習する。						
到達目標	身体機能の構造および運動における身体の変化について説明できる。 また、身体は有酸素運動および無酸素運動を実施した際に、どのような生理的反応(適応)を示すか説明できる。						
評価方法と基準	定期試験 90%、授業中の発表回数 10%、復習の忘れは減点 1回5点 授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	スポーツ生理学とは何かについて説明できる	講義の復習
2		講義	スポーツ生理学の基礎知識について説明できる	講義の復習
3		講義	運動器の仕組みと働きについて説明できる①	講義の復習
4		講義	運動器の仕組みと働きについて説明できる②	講義の復習
5		講義	呼吸器系の仕組みと働きについて説明できる	講義の復習
6		講義	循環器系の仕組みと働きについて説明できる	講義の復習
7		講義	エネルギー供給システムについて説明できる①	講義の復習
8		講義	エネルギー供給システムについて説明できる②	講義の復習
9		講義	エネルギー供給システムについて説明できる③	講義の復習
10		講義	バイオメカニクスの基礎知識について説明できる①	講義の復習
11		講義	バイオメカニクスの基礎知識について説明できる②	講義の復習
12		講義	バイオメカニクスの実際について説明できる①	講義の復習
13		講義	バイオメカニクスの実際について説明できる②	講義の復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	自主採点
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	試験内容の復習
準備学習 時間外学習			復習ノートを作成する	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト リファレンスブック フィットネス基礎理論 トレーニング指導者テキスト理論編 運動生理学の基礎と発展				

科目名 (英)	骨の仕組み (Bone Structure)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原岳人
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜1限
教員の略歴	早稲田大学 大学院修了 理学療法士 リハビリテーション病院勤務後、2007年より仙台大学勤務							
授業の 学習内容	本講義は、スポーツ科学の領域を学ぶうえで必要な筋肉の構造や動きに関する内容を講義を通して教授する。							
到達目標	スポーツ科学領域における、骨の構造や動きに関する知識を理解し、将来のスポーツに関連した仕事に就いた際のスキルとして活用できることを目標とする。							
評価方法と 基準	成績評価は、定期試験(評価60%)と、授業内外レポート(評価40%)により、総合的に判断して成績評価を行う。 ※授業内で小テスト・制作物などを実施し加点することがある。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	部位別の骨の名称が説明できる	
2		講義	骨の成長が説明できる	骨の成長について事前に調べておくこと
3		講義	全身の骨の特徴が説明できる	全身の骨の特について事前に調べておくこと
4		講義	関節の構造が説明できる	関節の構造について事前に調べておくこと
5		講義	関節の種類が説明できる	関節の種類について事前に調べておくこと
6		講義	解剖学における用語が説明できる	解剖学における用語について事前に調べておくこと
7		講義	骨の種類と分類が説明できる	骨の種類と分類について事前に調べておくこと
8		講義	頭部の骨が説明できる	頭部の骨について事前に調べておくこと
9		講義	胸郭の骨が説明できる	胸郭の骨について事前に調べておくこと
10		講義	上肢の骨が説明できる	上肢の骨について事前に調べておくこと
11		講義	脊椎の骨が説明できる	脊椎の骨について事前に調べておくこと
12		講義	下肢の骨が説明できる	下肢の骨について事前に調べておくこと
13		講義	骨格のまとめ	骨格のまとめについて事前に調べておくこと
14		筆記・実技試験	試験	
15		講義	テストの振り返り まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ ぜんぶわかる骨の名前としくみ事典(成美堂出版)				

科目名 (英)	筋の仕組み (Muscle Structure)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	笠原岳人
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜1時
教員の略歴	早稲田大学 大学院修了 理学療法士 リハビリテーション病院勤務後、2007年より仙台大学勤務						
授業の 学習内容	本講義は、スポーツ科学の領域を学ぶうえで必要な筋肉の構造や動きに関する内容を講義を通して教授する。						
到達目標	スポーツ科学領域における、筋肉の構造や動きに関する知識を理解し、将来のスポーツに関連した仕事に就いた際のスキルとして活用できることを目標とする。						
評価方法と 基準	成績評価は、定期試験(評価60%)と、授業内外レポート(評価40%)により、総合的に判断して成績評価を行う。 ※授業内で小テスト・制作物などを実施し加点することがある。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	筋肉の分類が説明できる	
2		講義	筋肉の種類が説明できる	筋肉の種類について事前に調べておくこと
3		講義	筋肉の収縮様式が説明できる	筋肉の収縮様式について事前に調べておくこと
4		講義	筋肉の動きが説明できる	筋肉の動きについて事前に調べておくこと
5		講義	上肢帯・肩関節に働く筋が説明できる	上肢帯・肩関節に働く筋について事前に調べておくこと
6		講義	肘関節・手関節・手指に働く筋が説明できる	肘関節・手関節・手指に働く筋について事前に調べておくこと
7		講義	股関節に働く筋が説明できる	股関節に働く筋について事前に調べておくこと
8		講義	膝関節・足関節・足部に働く筋が説明できる	膝関節・足関節・足部に働く筋について事前に調べておくこと
9		講義	体幹に働く筋が説明できる	体幹に働く筋について事前に調べておくこと
10		講義	頭部・頸部に働く筋が説明できる	頭部・頸部に働く筋について事前に調べておくこと
11		講義	関節の種類・構造が説明できる	関節の種類・構造について事前に調べておくこと
12		講義	関節の動きが説明できる	関節の動きについて事前に調べておくこと
13		講義	筋肉・関節のまとめ	筋肉・関節のまとめについて事前に調べておくこと
14		筆記・実技試験	試験	
15		講義	テストの振り返り まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 筋肉のしくみ・はたらき パーフェクト辞典(ナツメ社)				

科目名 (英)	スポーツ栄養学 I (Sports Nutrition I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐々木裕子
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜・2限
教員の略歴	管理栄養士						
授業の学習内容	スポーツ指導者には医・科学的な知識が必要である。この授業では、スポーツと栄養についての知識を学び、健康の維持増進を目的とした基本的な栄養に関する考え方について学習する。更に、運動選手に対する栄養食事サポートの方法について学習し、スポーツ指導者として正しく栄養指導ができるための知識を身に付けていく。						
到達目標	<p>栄養の基礎と運動に関わる知識を持つ。スポーツに関する食事方法について知識を持つ。水分摂取についての正しい知識を持つ。対象者に応じて、または、競技や目的に応じた栄養・食事のポイントを理解し、説明をすることができる。</p> <p>身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中のエネルギー代謝、生活習慣病の発症および重症化を防ぐための望ましい食事を説明することができる。</p>						
評価方法と基準	1) 筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	5大栄養素の役割と特徴 身体組成とエネルギー代謝	授業内で学んだ知識を振り返る
2		講義	5大栄養素の役割と特徴 身体組成とエネルギー代謝	授業内で学んだ知識を振り返る
3		講義	5大栄養素の役割と特徴 身体組成とエネルギー代謝	授業内で学んだ知識を振り返る
4		講義	アスリートの栄養摂取の考え方	授業内で学んだ知識を振り返る
5		講義	サプリメント摂取に関する注意点	授業内で学んだ知識を振り返る
6		講義	基本の食事	授業内で学んだ知識を振り返る
7		講義	水分補給	授業内で学んだ知識を振り返る
8		講義	減量・増量	授業内で学んだ知識を振り返る
9		講義	貧血予防の食事	授業内で学んだ知識を振り返る
10		講義	試合前・遠征時の食事	授業内で学んだ知識を振り返る
11		講義	疲労骨折予防・疲労回復・夏バテと食事	授業内で学んだ知識を振り返る
12		講義	女性アスリートの食事	授業内で学んだ知識を振り返る
13		講義	トレーニング期と試合期の食事について説明できる	授業内で学んだ知識を振り返る
14		講義	健康増進と栄養(日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド、食育)について説明できる	授業内で学んだ知識を振り返る
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 スポーツと栄養(公認AT専門科目テキスト) 栄養の基礎がわかる図解事典 リファレンスブック 健康運動実践指導者養成用テキスト フィットネス基礎理論 トレーニング指導者テキスト理論編				

科目名 (英)	コーチングスキル (Coaching Skills)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜・2限
教員の略歴	中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 JATI認定トレーニング指導者資格取得 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」代表、みやぎのはら接骨院開業						
授業の学習内容	人々はあらゆる目的でスポーツに関わっている。スポーツ指導者はその目的を満たせるように支援していくが、そのニーズに応えられるためのコーチングスキルが必要である。この授業では「コーチング」とは何かをはじめ、コーチングの基本的知識やその役割について学ぶ。また、あらゆる環境に応じたコーチングの留意点について学ぶ。さらに、ハイパフォーマンスにおけるコーチングについて学ぶ。						
到達目標	「コーチングとは」「コーチに求められる役割」「時代をリードするコーチング」「コーチング環境の特徴」「ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチングについて説明できる。そして、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格できる。						
評価方法と基準	1) 筆記テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	コーチングとは コーチングとコーチを定義する	学んだことを振り返る
2		講義	コーチングとは グッドプレーヤーを育てるグッドコーチ	学んだことを振り返る
3		講義	コーチングとは プレーヤーズセンタードなコーチング	学んだことを振り返る
4		講義	コーチに求められる役割 責任と役割	学んだことを振り返る
5		講義	コーチに求められる役割 コーチの果たすべき役割	学んだことを振り返る
6		講義	コーチに求められる役割 安全な環境の構築と問題発生時の対処法	学んだことを振り返る
7		講義	時代をリードするコーチング	学んだことを振り返る
8		講義	コーチング環境の特徴 ジュニア期のコーチングの留意点	学んだことを振り返る
9		講義	コーチング環境の特徴 年齢区分からみたコーチングの留意点	学んだことを振り返る
10		講義	コーチング環境の特徴 年齢区分からみたコーチングの留意点	学んだことを振り返る
11		講義	コーチング環境の特徴 部活動単位でのコーチングの留意点	学んだことを振り返る
12		講義	コーチング環境の特徴 部活動単位でのコーチングの留意点	学んだことを振り返る
13		講義	コーチング環境の特徴 性別の考慮	学んだことを振り返る
14		講義	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	学んだことを振り返る
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
リファレンスブック				

科目名 (英)	スポーツ社会学 (Sociology of Sports)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	沼田 尚
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜2限
教員の略歴	山形大学大学院教育学研究科修了、健康運動指導士 JATI-ATI S&F Active Life経営							
授業の学習内容	スポーツ指導者は「コーチング」について正しく理解することで、スポーツ実践者(プレーヤー)のニーズを満たす支援ができる。この授業では、スポーツが人々や社会にどのような影響をもたらすのか、その意義と価値について考える。また、スポーツ権について理解し、スポーツ権を害さないスポーツ指導に必要な知識を身につける。さらにスポーツに関する法令やルール、フェアプレーについて学ぶ。							
到達目標	リファレンスブックに記載される「コーチングを理解しよう」の6～13の内容について説明ができる。そして、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格できる。							
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験(80%)…各項目における、知識の理解度を評価する。 受講態度(20%)…出席状況と授業への取り組み姿勢・態度など。 課題レポート…適宜レポートの提出を求めることもある。 							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	スポーツの意義と価値① トレーニング指導者の役割	テキストを読んで内容をまとめておくこと
2		講義	スポーツの意義と価値② トレーニング指導者の役割	テキストを読んで内容をまとめておくこと
3		講義	スポーツの意義と価値③ トレーニング指導者の役割	テキストを読んで内容をまとめておくこと
4		講義	スポーツの価値を守るスポーツ権	テキストを読んで内容をまとめておくこと
5		講義	スポーツの自治 ガバナンスとコンプライアンス	テキストを読んで内容をまとめておくこと
6		講義	暴力・ハラスメントの根絶①	テキストを読んで内容をまとめておくこと
7		講義	暴力・ハラスメントの根絶②	テキストを読んで内容をまとめておくこと
8		講義	スポーツのインテグリティ	テキストを読んで内容をまとめておくこと
9		講義	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①	テキストを読んで内容をまとめておくこと
10		講義	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任②	テキストを読んで内容をまとめておくこと
11		講義	スポーツ仲裁	テキストを読んで内容をまとめておくこと
12		講義	スポーツ倫理	テキストを読んで内容をまとめておくこと
13		講義	スポーツ組織のマネジメント トレーニングの運営と情報活用	テキストを読んで内容をまとめておくこと
14		講義	障がい者とスポーツ	テキストを読んで内容をまとめておくこと
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	試験に備えて、全ての項目を復習する
準備学習 時間外学習			テキスト及び配布資料を読んで内容をまとめておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
リファレンスブック トレーニング指導者テキスト実践編				

科目名 (英)	スポーツ医学 I (Sports Medicine I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜・2限
教員の略歴	中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 JATI認定トレーニング指導者資格取得 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」代表						
授業の学習内容	スポーツ指導者には医・科学的な知識が必要である。この授業では、スポーツと健康について考え、内科的・精神的障害への対策や、ケガへの予防など学ぶ。また、救急処置について正しい方法を学ぶ。さらに、ドーピングについて学び、スポーツ指導者の役割を考える。						
到達目標	トレーニング指導者テキストの7章「運動と医学」の内容について説明ができる。 リファレンスブックに記載される「グッドコーチに求められる医・科学的知識」の6、7の内容について説明ができる。 そして、日本スポーツ協会のオンラインテストに合格できる。						
評価方法と基準	1) 筆記テスト100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	スポーツと健康 生活習慣病とその予防	
2		講義	アスリートの健康管理	
3		講義	アスリートの内科的障害と対策	
4		講義	アスリートの内科的障害と対策	
5		講義	女性アスリートの生涯と対策	
6		講義	スポーツによる精神障害と対策	
7		講義	外傷・障害の予防	
8		講義	外傷・障害の予防	
9		講義	コンディショニングの手法	
10		講義	救急処置(救急蘇生法)	
11		講義	救急処置(外科的応急処置)	
12		講義	アンチドーピング	
13		講義	アンチドーピング	
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ リファレンスブック トレーニング指導者テキスト理論編				

科目名 (英)	スポーツ心理学 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉陽子
	(Sports Psychology I)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜4.5限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	公認心理士 スポーツメンタルトレーニング指導士						
授業の学習内容	スポーツ心理学の主要な領域における基礎的な理論について学習する。主に、動機づけ、あがり、注意・集中、イメージ、コーチングに関する主要な理論を紹介する。加えて、各領域に関する心理的支援の基礎を学ぶ。						
到達目標	目標①スポーツ心理学における基礎的な理論を説明することができる 目標②スポーツ領域における心理的支援に関わる基礎的な知識を理解する 目標③スポーツ領域における心理的支援に関する基礎的な技能を修得する						
評価方法と基準	1) 定期試験60%, 2) レポート30%, 3) 平常の学習状況10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	スポーツ心理学を学ぶ意義について説明できる 行動としてのスポーツ	配布資料の振り返りレポート
2		講義	スポーツにおける動機づけ	配布資料の確認、振り返りレポート
3		講義	スポーツにおける動機づけ	配布資料の確認、振り返りレポート
4		講義	メンタルマネジメント	配布資料の確認、振り返りレポート
5		講義	メンタルマネジメント	配布資料の確認、振り返りレポート
6		講義	他者観察	配布資料の確認、振り返りレポート
7		講義	個人差を考慮したコーチング 日常生活における相談	配布資料の確認、振り返りレポート
8		講義	運動感覚(筋感覚・内部知覚) 運動学習	配布資料の確認、振り返りレポート
9		講義	フィードバック 心理的サポート・集中力	配布資料の確認、振り返りレポート
10		講義	あがり、プレッシャー、スランプについて 性格/自己概念	配布資料の確認、振り返りレポート
11		講義	あがり、プレッシャー、スランプについて 性格/自己概念	配布資料の確認、振り返りレポート
12		講義	心理的コンディショニング	配布資料の確認、振り返りレポート
13		講義	運動と心理 メンタルヘルス	配布資料の確認、振り返りレポート
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	配布資料の確認、振り返りレポート
15		講義		試験の振り返り
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
リファレンスブック トレーニング指導者テキスト理論編 健康運動実践指導者養成用テキスト				

科目名 (英)	健康管理概論 (Health Care Theory)		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	高橋英子
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜・2限
教員の略歴	東北大学医学部公衆衛生学教室非常勤講師、専門学校教員(H1～)、医学博士、薬学博士							
授業の 学習内容	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方を理解し、対象者の年代に応じた健康指導について学ぶ。 特に、健康づくり施策づくりのもととなる資料の中の表や図の読み取りができることに力を置く。 又、健康運動実践指導者資格取得を目指し、過去問にもできるだけ触れる。							
到達目標	①健康・スポーツ関連の指導者を目指す人たちに必要な健康管理に関する基礎的知識を広めるため、疾病予防、健康増進、健康と行政の関連、環境因子等についての基礎的知識を学ぶ。 ②対象者の年代別に運動との関わりについて学ぶ。 ③健康運動実践指導者資格はもとより各種資格取得を目指し、健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方、健康づくり施策について十分に理解する。							
評価方法と 基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする							
授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1		講義	オリエンテーション、健康と健康増進の概念:健康の定義を理解し、述べるができるようにする	WHO憲章の健康の定義を空で言えるようにする				
2		講義	アルマ・アタ宣言、オタワ憲章、その他の健康づくり施策のそれぞれの特徴を理解する	アルマ・アタ宣言、オタワ憲章の鍵となるキーワードを言えるようにする				
3		講義	わが国の現状と健康づくり施策:第1次&第2次国民健康づくり施策について学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
4		講義	身体活動・運動の社会環境対策、生活習慣病対策について学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
5		講義	健康日本21、健康増進法、健康フロンティア戦略について、それぞれの特徴を理解する	講義内容をノートにまとめること				
6		講義	食育基本法について理解する	食事バランスガイドをかいてみる				
7		講義	健康づくりのための運動基準2013、健康づくりのための身体活動指針(アクティブガイド)について学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
8		講義	がん対策基本法、健康日本21(第2次)について学ぶ	健康日本21(第2次)の主な目標について理解し、説明できるようにする				
9		講義	健康日本21(第2次)の主な目標について学ぶ	健康日本21(第2次)の主な目標について理解し、説明できるようにする				
10		講義	生活習慣と生活習慣病について学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
11		講義	メタボリックシンドロームについて学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
12		講義	介護予防について:人口の高齢化、介護保険法、介護予防について学ぶ	講義内容をノートにまとめること				
13		講義	メディカルチェックについて:メディカルチェックの目的、メディカルチェックの手順と内容を理解する	メディカルチェックの手順と内容を理解し、現場で使えるようにする				
14		試験	定期試験	半期学んだことを復習すること				
15		講義	試験解説	試験内容を十分に理解し、資格試験につなげる				
準備学習		時間外学習						
【使用教科書・教材・参考書】「健康運動実践指導者養成用テキスト」公財 健康・体力づくり事業財団 単元ごとに必要に応じて、参考資料を配布								

科目名 (英)	救急処置法 I (Emergency Treatment and Lifesaving I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	仁田新一
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	東北大学医学部卒業 加齢医学研究所教授・東北大学副総長を歴任 医学博士 専門分野心臓外科						
授業の学習内容	運動の現場で起こる救急処置の意義、目的が説明できる。 運動の現場で起こるケガの対応や予防について理解し、実践できる。 蘇生法、AED、気道異物除去ができる。 外科的処置、固定法の基本ができる。 生活習慣病、メディカルチェックについて説明ができる。						
到達目標	救急処置の目的と意義を理解する。 運動実施中の救急疾患や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防ができる。 生活習慣病の原因や病態を理解し、運動の重要性が説明できる。 健診やメディカルチェックについて説明できる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	救急処置基礎およびスポーツ現場における救急処置の意義、目的を理解する	ノートをまとめる
2		演習	救急医療の現状の理解、重要性について学ぶ	ノートをまとめる
3		演習	怪我の評価と観察の重要性について理解する	ノートをまとめる
4		演習	外傷への応急処置について習得する	ノートをまとめる
5		演習	緊急時の救命処置について習得する	ノートをまとめる
6		演習	心肺蘇生法・固定法の実践ができる	反復練習する
7		演習	心肺蘇生法・固定法の実践ができる	反復練習する
8		演習	内科的疾患への救急処置ができる	ノートをまとめる
9		演習	現場における救急体制を習得する	ノートをまとめる
10		演習	健康増進と生活習慣病について理解する	ノートをまとめる
11		演習	健康増進と生活習慣病について理解する	ノートをまとめる
12		演習	メディカルチェックを学び理解する	ノートをまとめる
13		演習	メディカルチェックを学び理解する	ノートをまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト フィットネス基礎理論 トレーニング指導者テキスト理論編				

科目名 (英)	レジスタンストレーニング I (Resistance Training I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊藤良真
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・1,2限
教員の略歴	H26年専門学校卒業後パーソナルトレーナーとして活躍。NASM-PES 健康運動実践指導者 NSCA-CPT						
授業の学習内容	フリーウエイトとマシントレーニングの違いが説明できる。主動筋・共同筋・拮抗筋、ストレッチの種類、バーの握りの種類が説明できる。部位に応じたエクササイズが実践できる。その際の注意事項を理解し、説明できる。						
到達目標	レジスタンストレーニングの基礎的知識の習得および基礎的技術の習得を目指す。また体カトレーニングに関する基礎的知識について、体力要素の構成から学ぶ。						
評価方法と基準	1) 筆記試験 30% 2) 実技試験 30% 3) 出席状況 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	フリーウエイトとマシンの違い、主動筋・共同筋・拮抗筋とは、ストレッチの種類、バーの握りの種類が説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	スクワット(自重) 主動筋(大腿四等筋)、共同筋(大殿筋、ハムストリングス)、拮抗筋(腸腰筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
3		演習	スクワット(フリーウエイト) バーの担ぎ方(ハイバー・ローバー)による主動筋の違い、補助のつき方が説明・実践できる	学んだことを振り返る
4		演習	レッグエクステンション、レッグカール ※スーパーセット法 それぞれのマシンの使い方、つま先の向きによる筋肉の使い方の違いが説明・実践できる	学んだことを振り返る
5		演習	ベンチプレス① 主動筋(大胸筋)、共同筋(上腕三頭筋、三角筋前部)、拮抗筋(広背筋) 5ポイントコンタクト、バーの軌道が説明・実践できる	学んだことを振り返る
6		演習	ベンチプレス② 主動筋(大胸筋)、共同筋(上腕三頭筋、三角筋前部)、拮抗筋(広背筋) 5ポイントコンタクト、バーの軌道が説明・実践できる	学んだことを振り返る
7		演習	ラットプルダウン、チニング ※コンパウンドセット法 主動筋(広背筋)、共同筋(上腕二頭筋)、拮抗筋(上腕三頭筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
8		演習	フロントレイズ、サイドレイズ 主動筋(三角筋前部・中部)、共同筋(僧帽筋)、拮抗筋(広背筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
9		演習	レッグプレス 主動筋(大腿四頭筋)、共同筋(大殿筋、ハムストリングス)、拮抗筋(腸腰筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
10		演習	ワンハンドダンベルロウ 主動筋(広背筋)、共同筋(上腕二頭筋)、拮抗筋(大胸筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
11		演習	アームカール 主動筋(上腕二頭筋)、共同筋(腕橈骨筋)、拮抗筋(上腕三頭筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
12		演習	トライセプスエクステンション、フレンチプレス 主動筋(上腕三頭筋)、共同筋(なし)、拮抗筋(上腕二頭筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
13		演習	クランチ、レッグレイズ 主動筋(腹直筋)、共同筋(外腹斜筋、内腹斜筋)、拮抗筋(脊柱起立筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	学んだことを振り返る
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	レジスタンストレーニングⅡ (Resistance TrainingⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	伊藤良真
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜3,4限
教員の略歴	H26年専門学校卒業後パーソナルトレーナーとして活躍。NASM-PES 健康運動実践指導者 NSCA-CPT						
授業の学習内容	主動筋・共同筋・拮抗筋、ストレッチの種類、バーの握りの種類が説明できる。部位に応じたエクササイズが実践できる。その際の注意事項を理解し、説明できる。						
到達目標	レジスタンストレーニングの基礎的知識の習得および基礎的技術の習得を目指す。また体カトレーニングに関する基礎的知識について、体力要素の構成から学ぶ。						
評価方法と基準	1) 筆記試験 30% 2) 実技試験 30% 3) 出席状況 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	オリエンテーション(前期種目の確認と後期に向けての動機付け) 今後の目標設定ができる	学んだことを振り返る
2		演習	フロントランジ 主動筋(大腿四頭筋)、共同筋(大殿筋、ハムストリングス)、拮抗筋(腸腰筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
3		演習	ダンベルフライ 主動筋(大胸筋)、共同筋(上腕二頭筋、三角筋前部)、拮抗筋(広背筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
4		演習	スタンディング・カーフレイズ、シーテッド・カーフレイズ 主動筋(腓腹筋)、共同筋(ヒラメ筋)、拮抗筋(前脛骨筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
5		演習	ベントオーバー・リアレイズ 主動筋(三角筋後部、共同筋(僧帽筋)、拮抗筋(大胸筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
6		演習	スティフレッグ・デッドリフト 主動筋(ハムストリングス)、共同筋(脊柱起立筋)、拮抗筋(大腿四頭筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
7		演習	バック・エクステンション 主動筋(脊柱起立筋)、共同筋(大殿筋、ハムストリングス)、拮抗筋(腹直筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
8		演習	ベントオーバー・ロウイング 主動筋(広背筋)、共同筋(上腕二頭筋)、拮抗筋(三角筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
9		演習	ダンベルプレス 主動筋(大胸筋)、共同筋(上腕三頭筋、三角筋前部)、拮抗筋(広背筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
10		演習	ブルオーバー 主動筋(広背筋)、共同筋(大胸筋)、拮抗筋(三角筋後部)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
11		演習	フレンチプレス 主動筋(上腕二頭筋)、共同筋(なし)、拮抗筋(上腕二頭筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
12		演習	アップライト・ロウイング 主動筋(三角筋)、共同筋(上腕二頭筋)、拮抗筋(広背筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
13		演習	サイド・ベント 主動筋(外腹斜筋)、共同筋(腹直筋)、拮抗筋(脊柱起立筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
14		演習	インクライン・ベンチプレス 主動筋(大胸筋上部)、共同筋(上腕三頭筋、三角筋前部)、拮抗筋(広背筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト トレーニング指導者テキスト				

科目名 (英)	フィットネス I (Fitness I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	渡邊流星
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・1,2限
教員の略歴	アスレティックトレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	エアロビックダンスダンスの特性、健康効果について説明できる。 エアロビックダンスの指導者としての役割について説明できる。 エアロビックダンスの安全な指導について理解し実践できる。 ウォーミングアップ、クーリングダウンについて理解し説明ができる。 安全で効果的なストレッチングが実践できる。 安全で効果的な筋コンディショニングが実践できる。						
到達目標	有酸素運動の代表であるエアロビクス運動の特性を理解し、正しいステップや筋コンディショニングの基礎をマスターする。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	プレゼンテーション ができる ローインパクト、ハインパクト(個々でパフォーマンス) 筋コンディショニング(腹筋)	学んだことを振り返る
2		演習	プレゼンテーション(ストレッチ指導) ができる 音とり、プレイントラ(ルーティンのリード練習、2人組み、5人組み)	学んだことを振り返る
3		演習	プレゼンテーション(ストレッチ指導) ができる 音とり、プレイントラ(ルーティンのリード練習、2人組み、5人組み、一人ずつ)	学んだことを振り返る
4		演習	ストレッチ指導 ができる プレイントラ(コンビネーション指導)	学んだことを振り返る
5		演習	ストレッチ指導 ができる プレイントラ、アームワークゲーム	学んだことを振り返る
6		講義	ウォーミングアップについて…目的、内容、プログラミング ウォーミングアップの作成ができる	学んだことを振り返る
7		演習	ウォーミングアップ ができる 3人組みで練習、フィードバック	学んだことを振り返る
8		講義	ウォーミングアップ、ストレッチの確認 メインエクササイズ、フラットトップベルカーブ が説明できる	学んだことを振り返る
9		演習	ストレッチの確認(ペアで指導の循環を使って)ができる ローインパクトのプレの部分(強度を変化させる4つの要因)	学んだことを振り返る
10		演習	ウォーミングアップ、ローインパクト、ハインパクト 筋コンディショニング(スクワット) マーチをステップのベースとした動きを考える	学んだことを振り返る
11		演習	ストレッチ指導ができる ステップの確認(踵の意識)、筋コンディショニング(フォーム重視)	学んだことを振り返る
12		演習	テスト対策 ウォーミングアップ、ローインパクトができる	学んだことを振り返る
13		試験	学習した内容の問題に答えられる	
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト エアロビックダンスエクササイズ指導理論				

科目名 (英)	フィットネスⅡ (FitnessⅡ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	岡本真紀子
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 曜日・時限 水曜・3,4限
教員の略歴	平成7年よりセントラルスポーツ・ルネサンスなどのフィットネスクラブでエアロビクスインストラクターとして指導						
授業の学習内容	エアロビックダンスダンスの特性、健康効果について説明できる。 エアロビックダンスの指導者としての役割について説明できる。 エアロビックダンスの安全な指導について理解し実践できる。 ウォーミングアップ、ローインパクト、ハイインパクトについて実践できる。						
到達目標	有酸素運動の代表であるエアロビクス運動の特性を理解し、正しいステップや筋コンディショニングの基礎をマスターする。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	オリエンテーション	
2		演習	ハード面・服装等について説明できる ウォーミングアップ、ローインパクト、ミドルインパクト、立位でのクールダウンが説明・実践できる	学んだことを振り返る
3		演習	ウォーミングアップ、ローインパクト、ミドルインパクト、筋コンディショニング、クールダウンが説明・実践できる	学んだことを振り返る
4		演習	ウォーミングアップ、ローインパクト、ミドルインパクト、筋コンディショニング、クールダウン(正しいステップをができる)	学んだことを振り返る
5		演習	ウォーミングアップ、ローインパクト、ミドルインパクト、筋コンディショニング、クールダウン(ストレッチのフォーム・アライメントの修正ができる)	学んだことを振り返る
6		演習	ウォーミングアップ(動きを意識して)、フロアトレーニング(腹・背)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
7		演習	ウォーミングアップ、ローインパクト、ハイインパクト(グループ単位、動作を大きく)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
8		演習	ウォーミングアップ(動作を大きく)、ハイインパクト(新しいステップ)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
9		演習	ウォーミングアップ(ストレッチ中心に短く)、ハイインパクト(4曲ノストップ)、筋コンディショニング(アーム、腹筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
10		演習	ウォーミングアップ(ストレッチ、Aステップ、Vステップ、6cマンボ、ハイインパクト(4曲ノストップ)、筋コンディショニング(アーム、内転筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
11		演習	ウォーミングアップ(ストレッチ、Aステップ、Vステップ(アームス中心)、ハイインパクト(4曲ノストップ)、筋コンディショニング(スクワット、体幹)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
12		演習	筋カトレーニング(6種目)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
13		演習	課題プレゼンテーション ウォーミングアップ(ストレッチ、ステップ復習)、筋コンディショニング(腹筋)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
14		演習	ストレッチ、ローインパクト、ハイインパクト(ステップ中心)、筋コンディショニング(体幹、大腿部、胸部)が説明・実践できる	学んだことを振り返る
15		試験	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト エアロビックダンスエクササイズ指導理論				

科目名 (英)	アクアエクササイズ I (Aquat Exercise I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	金森千穂
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	前期 月曜1限
教員の略歴	JAFA GFI、健康運動実践指導者、シナプソロジー®アドバンス教育トレーナー、バランスコーディネーション®教育トレーナー、講師育成						
授業の学習内容	クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの泳法、指導法について説明・実践できる。 水の特性を理解し、陸上運動との違いを説明できる。 浮き身、ストリームラインの取り方について説明・実践できる。 水泳指導における安全について説明できる。						
到達目標	水中運動の特性を理解するとともに、4泳法の泳力および指導法を学び、習得することを目標とする。						
評価方法と基準	1) 出席状況40% 2) 提出物60%(実践指導まとめ・振り返り課題)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	自由形の泳法、指導法が説明・実践できる①	泳法の・指導法のポイントを振り返る
2		演習	自由形の泳法、指導法が説明・実践できる②	泳法の・指導法のポイントを振り返る
3		演習	背泳ぎの泳法、指導法が説明・実践できる①	泳法の・指導法のポイントを振り返る
4		演習	背泳ぎの泳法、指導法が説明・実践できる②	泳法の・指導法のポイントを振り返る
5		演習	平泳ぎの泳法、指導法が説明・実践できる①	泳法の・指導法のポイントを振り返る
6		演習	平泳ぎの泳法、指導法が説明・実践できる②	泳法の・指導法のポイントを振り返る
7		演習	バタフライの泳法、指導法が説明・実践できる①	泳法の・指導法のポイントを振り返る
8		演習	バタフライの泳法、指導法が説明・実践できる②	泳法の・指導法のポイントを振り返る
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 健康運動実践指導者養成用テキスト				

科目名 (英)	体力測定法 (Physical Fitness Test)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	沼田 尚
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜・3,4限
教員の略歴	山形大学大学院教育学研究科修了、健康運動指導士 JATI-ATI S&F Activ Life 経営						
授業の学習内容	体力測定の意義・目的について説明ができ、対象に合わせて体格・体型、体脂肪量、有酸素・無酸素能力、筋力の測定ができる。また、測定した結果について評価ができる。						
到達目標	体力測定に関する理論と方法を学び、データ解析や判定法による実践指導ができる。						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験(40%)…各項目における、知識の理解度を評価する。 課題レポート(40%)…実習における理解度を評価するレポートの提出。 受講態度(10%)…出席状況と授業への取り組み姿勢・態度など。 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション 体力測定法を学ぶことについて考えることができる	予習復習として、体力測定概論を読んで内容をまとめておくこと
2		講義	体力測定の意義・目的を説明できる	予習復習として、体力測定の意義・目的を読んで内容をまとめておくこと
3		演習	体格、体型の測定と評価について 説明・実践できる	予習復習として、身体組成を読んで内容をまとめておくこと
4		演習	体脂肪量の測定と評価について 説明・実践できる	予習復習として、身体組成を読んで内容をまとめておくこと
5		演習	有酸素、無酸素能力の測定と評価について 説明・実践できる	予習復習として、有酸素・無酸素の測定と評価を読んで内容をまとめておくこと
6		演習	筋力の測定と評価について 説明・実践できる	予習復習として、筋力の測定と評価を読んで内容をまとめておくこと
7		演習	基礎的運動要素の測定と評価について 説明・実践できる	予習復習として、基礎的運動要素の測定と評価を読んで内容をまとめておくこと
8		演習	体力テスト測定結果の評価について 説明・実践できる	予習復習として、体力テスト測定結果の評価を読んで内容をまとめておくこと
9		演習	体力と運動能力(構成要素)、体力構成要素の 測定法について説明・実践できる	予習復習として、体力と運動能力、体力構成要素の測定法を読んで内容をまとめておくこと
10		演習	フィールドテストが説明・実践できる	予習復習として、フィールドテストを読んで内容をまとめておくこと
11		演習	高齢者の体力測定法(持久力)が 説明・実践できる	予習復習として、高齢者の体力測定法(持久力)を読んで内容をまとめておくこと
12		演習	高齢者の体力測定法(筋力)が 説明・実践ができる	予習復習として、高齢者の体力測定法(筋力)を読んで内容をまとめておくこと
13		演習	介護予防に関する体力測定法とその評価が 説明・実践できる	予習復習として、介護予防に関する体力測定法とその評価を読んで内容をまとめておくこと
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	試験に備えて、全ての項目を復習する
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	レポート作成の為に資料・情報の収集
準備学習 時間外学習			テキスト及び配布資料を読んで内容をまとめておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
健康運動実践指導者養成用テキスト				

科目名 (英)	データ分析 I (Data Analytics I)		必修 選択		年次	1	担当教員	松本洋平
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	ダートフィッシュジャパンスタッフ							
授業の 学習内容	映像撮影、キャプチャー、管理、分析共有の知識とオペレーションを習得、アナリストに求められるスキルを習得、 分析基礎知識を学ぶ。□							
到達目標	アナリストに必要な知識と技能を学び、競技現場でチームをサポートできる実践力を培う。ダートフィッシュソフトウェ アの分析ソフトウェアを通じて、スポーツアナリストテックスを理解する。							
評価方法と 基準	単元ごとに簡単な振り返り理解度チェックを実施します。出席、課題提出状況、テスト							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	スポーツパフォーマンス分析入門	
2		演習	スポーツパフォーマンス分析入門	
3		演習	スポーツパフォーマンス分析入門	
4		演習	スポーツパフォーマンス分析入門	
5		演習	ライブキャプチャーについて学ぶ	
6		演習	ライブキャプチャーについて学ぶ	
7		演習	ライブキャプチャーについて学ぶ	
8		演習	ライブキャプチャーについて学ぶ	
9		演習	ライブキャプチャーについて学ぶ	
10		演習	映像の管理、再生、共有	
11		演習	映像の管理、再生、共有	
12		演習	映像の管理、再生、共有	
13		演習	映像の管理、再生、共有	
14		演習	映像の管理、再生、共有	
15		テスト	成果発表とテスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーション I (Athletic Rehabilitation I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	千葉 渉
	学科・コース	プロスポーツトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	医療法人松田会 松田病院 理学療法士、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー						
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。						
到達目標	①アスレティックリハビリテーションの概要を理解する ②アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	アスレティックリハビリテーションの考え方を理解する	アスレティックリハビリテーションの概要をまとめる
2		演習	上肢の解剖学的運動を理解する	上肢の機能解剖をまとめる
3		演習	上肢のアスレティックリハビリテーションを理解する	上肢のアスレティックリハビリテーションをまとめる
4		演習	上肢の関節可動域測定を理解する	上肢の関節可動域測定の方法をまとめる
5		演習	上肢のMMTを理解する	上肢のMMTをまとめる
6		演習	まとめ	
7		演習	下肢の解剖学的運動を理解する	下肢の機能解剖をまとめる
8		演習	下肢のアスレティックリハビリテーションを理解する	下肢のアスレティックリハビリテーションをまとめる
9		演習	下肢の関節可動域測定を理解する	下肢の関節可動域測定の方法をまとめる
10		演習	下肢のMMTを理解する	下肢のMMTをまとめる
11		演習	まとめ	
12		演習	物理療法について理解する	物理療法の概要をまとめる
13		演習	補装具について理解する	補装具の概要をまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦アスレティックリハビリテーション				

科目名 (英)	コンディショニング理論演習 I (Seminar of Strength and Conditioning I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜・1限
教員の略歴	中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 JATI認定トレーニング指導者資格取得 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」代表、みやぎのはら接骨院開業						
授業の学習内容	コンディショニングの方法および目的を理解し、身体的、環境的、心因的因子を理解する。また、競技特性、外傷予防について学び、スポーツ現場でその知識を還元すること。						
到達目標	コンディショニングの方法および目的を理解し、身体的、環境的、心因的因子を説明できる。 また、競技特性、外傷予防について説明ができる。						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コンディショニングの目的について説明できる	テキストの予習・復習
2		演習	傷害発生要因、身体・環境・心因的因子について説明できる	テキストの予習・復習
3		演習	コンディショニングの指標及び評価法、フィットネス・フィールドテストについて説明できる	テキストの予習・復習
4		演習	コンディショニングの指標及び評価法、身体・環境・心因的因子について説明できる	テキストの予習・復習
5		演習	コンディショニングを意識したトレーニング計画の立案及び設計について説明できる	テキストの予習・復習
6		演習	身体・環境・心因的因子から傷害発生に関与する環境因子について説明できる	テキストの予習・復習
7		演習	ウォーミングアップ・クーリングダウン意義・目的・方法を説明・実践できる	テキストの予習・復習
8		演習	コンディショントレーニングについて説明・実践できる	テキストの予習・復習
9		演習	スプリント、エンデュランス(サーキットトレーニングを含む)について説明・実践できる	テキストの予習・復習
10		演習	冬季・採点競技系の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる	テキストの予習・復習
11		演習	格闘技・記録系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる	テキストの予習・復習
12		演習	球技系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる①	テキストの予習・復習
13		演習	球技系競技の傷害・環境を理解し、対策・改善について説明できる②	テキストの予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング				

科目名 (英)	スポーツ栄養学Ⅱ (Sports Nutrition Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	佐々木裕子
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 金曜・3限
教員の略歴	管理栄養士						
授業の学習 内容	栄養学の知識および運動と栄養の関わりについて説明ができる。また、スポーツ選手に対する栄養の留意点や指導法について説明ができる。						
到達目標	身体組成やウエイトコントロール、栄養欠陥に基づく疾病、サプリメントの知識を持ち、アスリートに向けた食事の計画や栄養指導を行うことができる						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 小テスト15% 3) 出席・意欲・態度 25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「スポーツ栄養とは」について説明ができる	授業内で学んだ知識を振り返る
2		講義	各栄養素の役割を理解し、からだ作りとウエイトコントロールについて説明ができる	授業内で学んだ知識を振り返る
3		講義	コンディショニングを整える栄養補給と計画(エネルギー消費量について)について説明ができる	授業内で学んだ知識を振り返る
4		講義	コンディショニングを整える栄養補給と食事について説明ができる(栄養と水分について)	授業内で学んだ知識を振り返る
5		講義	コンディショニングを整える食事について説明ができる(食事の計画について)	授業内で学んだ知識を振り返る
6		講義	栄養欠陥に基づく疾病と対策について説明ができる	授業内で学んだ知識を振り返る
7		講義	栄養欠陥に基づく疾病と対策について説明ができる(身体構造の変化について)	授業内で学んだ知識を振り返る
8		講義	栄養欠陥に基づく疾病と対策について説明ができる(栄養素の過剰摂取について)	授業内で学んだ知識を振り返る
9		講義	さまざまな状況下での栄養摂取について説明ができる	授業内で学んだ知識を振り返る
10		講義	サプリメント事情を知り、種類と期待される効果および問題点を把握し、効果的な選択方法について説明ができる①	授業内で学んだ知識を振り返る
11		講義	サプリメント事情を知り、種類と期待される効果および問題点を把握し、効果的な選択方法について説明ができる②	授業内で学んだ知識を振り返る
12		講義	アスリートを指導するための栄養学的情報の収集および栄養指導ができる①	授業内で学んだ知識を振り返る
13		講義	アスリートを指導するための栄養学的情報の収集および栄養指導ができる②	授業内で学んだ知識を振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	授業内で学んだ知識を振り返る
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 スポーツと栄養(公認AT専門科目テキスト) 栄養の基礎がわかる図解事典 リファレンスブック 健康運動実践指導者養成用テキスト フィットネス基礎理論 トレーニング指導者テキスト理論編				

科目名 (英)	スポーツ生理学Ⅱ (Exercise Physiology Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	藤本 敏彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜・4限
教員の略歴	1990年鹿屋体育大学修士課程修了後、東北大学にて勤務 准教授						
授業の学習内容	スポーツ生理Ⅰの知識をもとにスポーツ時に起こる身体内での生理現象(神経系、骨格筋系、内分泌系、呼吸循環器系、発達発育)をトレーニングと関連づけて学習する。						
到達目標	神経、筋、骨の機能と呼吸循環器の機能を理解し、トレーニング効果の説明ができる。						
評価方法と基準	定期試験 90%、授業中の発表回数 10%、復習の忘れは減点 1回5点 授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	骨の構造と機能及び代謝について説明ができる	講義の復習
2		講義	筋細胞と筋収縮の仕組みについて説明ができる①	講義の復習
3		講義	筋細胞と筋収縮の仕組みについて説明ができる②	講義の復習
4		講義	ホルモンバランスと組織構造の適応について説明ができる	講義の復習
5		講義	消化器系の構造と役割について説明ができる①	講義の復習
6		講義	消化器系の構造と役割について説明ができる②	講義の復習
7		講義	呼吸循環器系の構造と役割について説明ができる①	講義の復習
8		講義	呼吸循環器系の構造と役割について説明ができる②	講義の復習
9		講義	トレーニングによるからだの変化について説明ができる①(筋細胞)	講義の復習
10		講義	トレーニングによるからだの変化について説明ができる②(骨細胞)	講義の復習
11		講義	トレーニングによるからだの変化について説明ができる③(循環器)	講義の復習
12		講義	有酸素トレーニングと無酸素トレーニングについて説明ができる	講義の復習
13		講義	デイトレーニングについて説明ができる	講義の復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	自主採点
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	試験内容の復習
準備学習 時間外学習		復習ノートを作成する		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
健康運動実践指導者養成用テキスト 公認アスレティックトレーナー専門科目テキストスポーツ科学 フィットネス基礎理論 トレーニング指導者テキスト理論編 運動生理学の基礎と発展				

科目名 (英)	アスレティックトレーナー論 (Introduction to Athletic Training)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	早坂ひとみ
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスリートのコンディショニングを統合的な視点を持ってサポートする。また、正しい知識や優れた技術を習得するための意義を理解する。ATの業務、倫理について、具体的な例を挙げながら説明していく。						
到達目標	①ATの役割と業務を理解する ②医科学スタッフとの連携、協力の重要性を理解する ③ATチームの組織運営を理解する ④ATの倫理を理解する						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	アスレティックトレーナーの歴史と制度を理解する	ATの制度をまとめる
2		講義	アスレティックトレーナーの任務と役割を理解する	ATの役割をまとめる
3		講義	アスレティックトレーナーの業務①を理解する	ATが行う外傷障害の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングをまとめる
4		講義	アスレティックトレーナーの業務②を理解する	ATが行う検査・測定評価、健康管理と組織運営、教育的指導をまとめる
5		講義	アスレティックトレーナーの活動①を理解する	合宿、海外遠征におけるATの活動をまとめる
6		講義	アスレティックトレーナーの活動②を理解する	陸上、テニスにおけるATの活動をまとめる
7		講義	アスレティックトレーナーの活動③を理解する	ラグビー、サッカー、冬季競技におけるATの活動をまとめる
8		講義	医科学スタッフの構成と役割を理解する	アスリートをサポートするスタッフの役割をまとめる
9		講義	スポーツドクター、コーチとの連携・協力を理解する	スポーツドクター、コーチとの連携、役割の分担をまとめる
10		講義	アスレティックトレーナーの組織と運営を理解する	ATチームの組織運営をまとめる
11		講義	競技者のコンディショニングに関するデータの管理を理解する	競技者のデータ管理の必要性、方法をまとめる
12		講義	アスレティックトレーナーの立場と倫理を理解する	ATの倫理をまとめる
13		講義	アスレティックトレーナーと法的諸問題を理解する	ATの安全配慮義務、注意義務をまとめる
14		試験	定期試験	
15		講義	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①アスレティックトレーナーの役割				

科目名 (英)	ダンスフィットネス I	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	上野唯	
	(Dance Fitness I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期	
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	曜日・時限						火曜・1限
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員							
授業の学習内容	フィットネス業界では、人々が安全で楽しく継続的に運動ができるために、日々新しいダンスフィットネスプログラムが生まれている。この授業では、そのダンスフィットネスプログラムを体験しながら、その運動の意義・効果などを学習する。							
到達目標	各種ダンスフィットネスプログラムの動きができる。 また、そのエクササイズの意味や効果が説明できる。							
評価方法と基準	1)実技テスト&課題 100%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ダンスフィットネス について 自己紹介 ストレッチ ズンバ レッスン	振返りと練習
2		演習	ストレッチ ズンバ 前回の振り付けの確認	振返りと練習
3		演習	ストレッチ ズンバ 前回の振り付けとアレンジ	振返りと練習
4		演習	ストレッチ ズンバ 前回の振り付けとラストアレンジ	振返りと練習
5		演習	ストレッチ ダンスステップ 前回の振り付けとアレンジ制作考案	振返りと練習
6		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ実践	振返りと練習
7		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ実践	振返りと練習
8		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ実践	振返りと練習
9		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ完成	振返りと練習
10		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ完成形	振返りと練習
11		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ アレンジ完成形	振返りと練習
12		演習	ストレッチ ダンスステップ メインダンス	振返りと練習
13		演習	ストレッチ アイソレーション ダンスステップ メインテスト練習	振返りと練習
14		試験	実技テスト	振返り
15		演習	課題	課題
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンピュータデザイン I (Computer Design I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	薄井達也
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜1限
教員の略歴	2014～2022年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動						
授業の学習内容	実際の社会で活かすためのデザイン制作アプリ「illustrator」のスキルを学びます。綺麗なデザインの名刺・チラシにするためには、ビジネスやサービスも整理されていなければいけません。単純にソフトのスキルを学ぶだけでなく、情報の整理を学びましょう。						
到達目標	スポーツ現場における広告・宣伝のためにコンピュータ作図ソフトの「illustrator」や「photoshop」などの操作ができる。また、コンピュータを活用し、インターネット媒体や、DM、ポスター、チラシなどにおいて魅力的なデザインを考え作り出すことができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	イラストレーターとは どんなことをするソフトなのか？	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
2		演習	ロゴを作ってみよう ロゴとは？	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
3		演習	ロゴを作ってみよう 色が見る側に与える印象 色の組み合わせについて	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
4		演習	ロゴを作ってみよう グラデーションを使いこなす	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
5		演習	ロゴを作ってみよう 形が見る側に与える印象	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
6		演習	名刺制作 事例紹介	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
7		演習	名刺制作 制作前の設定 制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
8		演習	名刺制作 レイアウトのコツ 制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
9		演習	チラシ制作 事例紹介	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
10		演習	チラシ制作 制作前の設定 素材探し	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
11		演習	チラシ制作 制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
12		演習	チラシ制作 制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
13		演習	チラシ制作 制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
14		演習	印刷 印刷のルール	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
15		講義	印刷 印刷の注意点	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ
準備学習 時間外学習			テキスト及び配布資料を読んで内容をまとめておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ITビジネス I (IT Business I)	必修 選択	選択 必修	年次	1	担当教員	濱崎 幸
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	2021年 ECコンサルティング企業 株式会社HMIT創業 代表取締役 2022年 総合コンサルティング企業 株式会社HMIT'Sホールディングス 創業 代表取締役 2023年 飲食店事業企業 株式会社In The Forest 創業 取締役 2024年 フリーランスエージェント企業 千家株式会社 創業 代表取締役						
授業の学習内容	情報技術、いわゆるITは近年著しく成長を遂げている。その中には、Eコマース/SNS/D2Cなど多種多様なモデルがあり、さらには既存の事業をIT化させるデジタルトランスフォーメーション(DX)なども存在している。そのモデルを理解し、社会人になった際のITリテラシーを高めることが出来る。近年ITビジネスではその着手ハードルの低さから、「企業の選択」ではなく「起業の選択」も増えている。講師である濱崎もその一人で、自ら事業を興している。今の自分の知識をビジネスにどう活かすのか？そのノウハウを学べる。						
到達目標	デザインの概念、ロジックの理解を行いプレゼンだけでなく制作物を作成する。						
評価方法と基準	1) 出席状況 40% 2) 提出物 60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	デザインの概念を理解し、説明ができる	
2		演習	デザインの原則理解①	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
3		演習	デザインの原則理解②	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
4		演習	撮影デザインの理解①(実技)	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
5		演習	撮影デザインの理解②(実技)	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
6		演習	撮影デザインの理解③(実技)	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
7		演習	レイアウトデザインの理解①(実技)	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
8		演習	レイアウトデザインの理解②(実技)	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
9		演習	カラーデザインの理解	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
10		演習	タイポグラフィデザインの理解①	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
11		演習	タイポグラフィデザインの理解②	学習箇所について事前にリサーチし、授業にて考えを発表する
12		演習	総復習	プレゼンテーションの作成し、発表を行う
13		演習	デザインに関する試験①(座学)	プレゼンテーションの作成し、発表を行う
14		演習	デザインに関する試験②(実技)	プレゼンテーションの作成し、発表を行う
15		演習	フィードバック	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	レクリエーション演習	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	1	担当教員	伊藤枝里奈
	(Instructional Methods of Recreation)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜・1限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	大学院修士課程修了 こどもの運動指導に従事						
授業の学習内容	レクリエーションの指導者・支援者として必要な実技を体験学習し、習得する。						
到達目標	レクリエーションについて説明ができる。 各種運動やニュースポーツなどを指導する際、アイスブレイキングやレクリエーション運動などを計画し、実践指導することができる。						
評価方法と基準	1)授業用ノート100% (授業内での課題、実践指導の評価、出席などの記録など全ての記載を総合的に評価)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	オリエンテーション ～レクリエーションとは何か～	
2		演習	レクリエーションの基礎理論① ～社会とレクリエーション運動～	ノートまとめ
3		演習	レクリエーションの基礎理論② ～レクリエーションの理解と歴史～	ノートまとめ
4		演習	レクリエーション支援の理論	ノートまとめ
5		演習	アイスブレイキング①	ノートまとめ
6		演習	アイスブレイキング②	ノートまとめ
7		演習	ニュースポーツ①	ノートまとめ
8		演習	ニュースポーツ②	ノートまとめ
9		演習	ニュースポーツ③	ノートまとめ
10		演習	ニュースポーツ④	ノートまとめ
11		演習	野外活動①	ノートまとめ
12		演習	野外活動②	ノートまとめ
13		演習	レクリエーションゲーム指導案①	ノートまとめ
14		試験	レクリエーションゲーム指導案②	ノートまとめ
15		演習	実技テスト	ノートまとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	資格検定対策 I (Preparation for Certificatons I)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 集中
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ業界で活躍するためには、スポーツの専門的な知識・技能や、ビジネススキル、ヒューマンスキルが必要である。それらを身につけていくために、各専門的な協会や団体が認定する資格の取得を目指している。スポーツ業界での仕事は多種多様であり、活躍できる分野も幅広い。自分にとってどのような資格が必要かを考え、						
到達目標	1) 自分に必要な資格が何かを考えることができる 2) 目指す資格取得のためにどのような能力が必要か説明することができる 3) 目指す資格取得のための勉強計画ができる 4) 目指す資格取得ができる						
評価方法と基準	1) 小テスト 20% 2) 筆記・実技テスト 30% 3) 提出物・課題 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	オリエンテーション	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
2	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
3	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
4	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
5	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
6	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
7	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
8	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
9	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
10	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
11	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
12	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
13	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
14	/	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
15	/	演習	試験	授業内で学んだことをまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	資格検定対策Ⅱ (Preparation for Certificatons I)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ業界で活躍するためには、スポーツの専門的な知識・技能や、ビジネススキル、ヒューマンスキルが必要である。それらを身につけていくために、各専門的な協会や団体が認定する資格の取得を目指している。スポーツ業界での仕事は多種多様であり、活躍できる分野も幅広い。自分にとってどのような資格が必要かを考え、						
到達目標	1) 自分に必要な資格が何かを考えることができる 2) 目指す資格取得のためにどのような能力が必要か説明することができる 3) 目指す資格取得のための勉強計画ができる 4) 目指す資格取得ができる						
評価方法と基準	1) 小テスト 20% 2) 筆記・実技テスト 30% 3) 提出物・課題 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
16	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
17	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
18	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
19	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
20	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
21	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
22	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
23	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
24	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
25	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
26	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
27	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
28	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
29	／	演習	前回の振り返り 資格取得計画 小テスト 資格合格のための実践・練習 課題の確認	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
30	／	演習	試験	授業内で学んだことをまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	SAQ資格対策 (Exam Preparation for SAQ Instructor)		必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤村真仁
	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	曜日・時限	集中	
学科・コース	プロスポーツトレーナー科							
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	SAQトレーニングとは何かを説明でき、プリパレーションタイム、スピード、アジリティ、クイックネス、下肢のプライオメトリクス、体幹のトレーニングが説明・実践できる。							
到達目標	「SAQインストラクターレベル1」として認定される。 指導者としての実践的な知識やトレーニング手法を獲得する。 基礎体力、基礎トレーニングの正確な理論および実技が説明・実践できる。							
評価方法と基準	「SAQインストラクターレベル1」の検定で実施される実技テストの合格者に単位を認定する。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	講義	SAQ概論	学んだことを振り返る
2	／	講義	プリパレーションタイム	学んだことを振り返る
3	／	演習	プリパレーションタイム	学んだことを実践する
4	／	演習	体幹のトレーニング	学んだことを実践する
5	／	講義	アジリティ	学んだことを振り返る
6	／	講義	下肢のプライオメトリクス	学んだことを振り返る
7	／	演習	アジリティ	学んだことを実践する
8	／	演習	下肢のプライオメトリクス	学んだことを実践する
9	／	講義	クイックネス	学んだことを振り返る
10	／	講義	スピード	学んだことを振り返る
11	／	演習	クイックネス	学んだことを実践する
12	／	演習	スピード	学んだことを実践する
13	／	演習	総合演習	テスト科目の練習をする
14	／	演習	総合演習	テスト科目の練習をする
15	／	試験	試験	
16	／			
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ SAQインストラクターレベル1テキスト				

科目名 (英)	特別講義 I (Special Lecture I)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	各業界講師 (担当: 藤村)
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	通年
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ業界は時代の経過とともに日々進化している。そのスポーツ業界で即戦力として活躍するためには、常に最先端の情報を得ることが求められる。産学連携教育の一貫として、業界の最先端で活躍している企業やプロの講師から業界の話やこれから身につけてくべきスキルについて学ぶ。						
到達目標	1) 今の業界の流れ・仕組みが説明できる 2) 今の業界で求められるスキルが説明できる 3) 1),2)の上で、自分が今後どうすべきかを計画し、説明することができる						
評価方法と基準	1) 事前・事後課題の提出 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
2	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
3	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
4	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
5	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
6	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
7	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
8	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
9	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
10	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
11	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
12	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
13	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
14	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
15	／	演習	今の業界での流れ・仕組み・求められる知識・技能 今後についての考察、説明	学んだことをノートにまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ゼミ I (Seminar I)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	各業界講師 (担当: 藤村)
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (6)	開講区分	通年
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ業界での仕事は多種多様で幅広い。多くのことを経験し、多くの知識・技能を身につけることは現場で活躍していく上で大切である。その一方で現場では高いスキルも求められる。自分がやりたい仕事現場で、一層活躍していくためにはひとつ一つの学びをさらに自ら深めていく必要である。この授業では、自分に必要なテーマ・課題について学生が主体となって集まり、グループで考えたり、討論、発表しながら知識・技能を深めていく。						
到達目標	1) 自分に必要な知識・技能について考え、学ぶことへ興味・関心を抱きそれを説明することができる 2) 自分が活躍していく業界や現場での問題点や課題についてグループで考え、意見をまとめ、発表することができる						
評価方法と基準	1) グループワークの取り組み(意欲関心態度) 50% 2) 提出物 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
2	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
3	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
4	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
5	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
6	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
7	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
8	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
9	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
10	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
11	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
12	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
13	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
14	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
15	/	演習	自分に必要な知識・技能についてグループで学ぶ(課題、討論、まとめ、発表)	学んだことや気づきをまとめる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	ワークショップ I (Workshop I)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 (8)	開講区分	通年
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ業界の仕事は多種多様である。そのため現場で活躍するためには幅広い学びが必要である。この授業ではこれまで受講してきた内容をさらに体験的に学習したり、グループ学習を通してディスカッションしたり、発表したりなど知識を得るだけでなくアウトプットを中心に実践力を高めながら展開する。 ひとり一人目指す現場で求められるスキルが大きく異なるため、自分にとって何が課題かを考えながら、スキル習得のための計画を立て、実践を繰り返していく。						
到達目標	1) 日々の授業で学んだことを整理し、ポイントについて説明することができる 2) 自分が目指す業界に必要なスキルについて説明することができる 3) 2)のスキルを向上させるための学習についてPDCAすることができる						
評価方法と基準	1) 自分に必要なスキルの向上に向けたPDCAができているかを評価 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
2	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
3	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
4	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
5	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
6	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
7	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
8	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
9	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
10	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
11	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
12	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
13	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
14	／	演習	課題の確認 本日と今後の学習計画 実践・練習・発表 振り返り 次回の目標	授業内で学んだことをまとめ、次回までに振り返る
15	／	演習	まとめ・評価	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スキルアップ活動 I (Skill Up I)		必修 選択	コース 必修	年次	1	担当教員	藤村真仁
	学科・コース	プロスポーツトレーナー	授業 形態	実習	総時間 (単位)	240 (16)	開講区分	集中
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員							
授業の学習内容	自分が将来目指す業界で活かせる専門知識・技術を高めるために、自分で課題を設け計画的に実践する。							
到達目標	自分が将来活躍する業界で活かせる専門知識・技術が何か捉え、それを高めるためにやるべきことを計画し、実践することができる。							
評価方法と基準	1) 活動記録							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
2	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
3	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
4	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
5	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
6	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
7	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
8	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
9	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
10	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
11	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
12	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
13	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
14	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
15	/	演習	知識・技術を高めるため計画をもとに実践する実践したことを記録に残す	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	現場実習 I (Internship Program I)	必修 選択	コース 必修	年次	1	担当教員	早坂ひとみ
学科・コース	プロスポーツトレーナー	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	集中
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	① 公認ATのもと見学実習を通じてATの業務を理解する ② 公認ATのもと検査・測定と評価の目的、方法を理解する ③ 公認ATのもとアスレティックリハビリテーションプログラム作成の目的、方法を理解する ④ 公認ATのもとスポーツ現場でのATの業務を理解する						
到達目標	① ATの業務を理解し、業務が遂行できるようになる ② 検査・測定と評価の目的、方法を理解し、実践できるようになる ③ アスレティックリハビリテーションプログラム作成の目的、方法を理解し、プログラム作成ができるようになる ④ 公認ATのもとスポーツ現場でのATの業務を理解し、実施できるようになる						
評価方法及び基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	スポーツ現場での活動	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨				

科目名 (英)	業界研修 I (Industry Training I)	必修 選択	コース 必修	年次	1	担当教員	藤村真仁
学科・コース	プロスポーツトレーナー	授業 形態	実習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	集中
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	自分が目指す業界で研修を行う。研修前には目標をたて事前に準備・計画をする。研修中はこれまで学んだ知識・技術を実践する。その中で課題を見つけ改善する。研修後は振り返り、今後の学校生活に活かす方法を考える。						
到達目標	①研修の目的が説明できる ②研修の計画・準備ができ、説明できる ③研修先と研修計画をたてることができる ④研修プログラムを遂行できる ⑤研修について振り返り、発表することができる						
評価方法と基準	実習内容、学習内容を実習報告書に記録する。実習報告書提出者に単位を認定する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	/	実習	実習計画	学んだことを報告書にまとめる
2	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
3	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
4	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
5	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
6	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
7	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
8	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
9	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
10	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
11	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
12	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
13	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
14	/	実習	現場活動	学んだことを報告書にまとめる
15	/	実習	実習の振り返り	学んだことを報告書にまとめる
準備学習 時間外学習			復習として実習内容のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	進級制作 (Promotion work)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	上野唯
学科・コース	プロスポーツトレーナー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 火曜・1限
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員						
授業の学習内容	1年次で学習したことや体得したことを、個人やグループでテーマを設定し、課題に取り組む。						
到達目標	①1年次の学習内容から自分でテーマを設定できる ②テーマについてまとめることができる ③パワーポイントの作成ができる ④プレゼンテーションができる						
評価方法と基準	1)出席数50% 2)作成したパワーポイント25% 3)プレゼンテーション25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	1年次を振り返りテーマを設定できる	資料まとめ
2		演習	1年次を振り返りテーマを設定できる	資料まとめ
3		演習	1年次を振り返りテーマを設定できる	資料まとめ
4		演習	テーマについて資料を集めることができる	資料まとめ
5		演習	テーマについて資料を集めることができる	資料まとめ
6		演習	テーマについて資料を集めることができる	資料まとめ
7		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
8		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
9		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
10		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
11		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
12		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
13		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
14		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
15		演習	テーマについてまとめることができる	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	スポーツマネジメント I	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	上野唯
	(sports management I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜4限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツのビジネス的な側面を学び 主にフィットネスクラブのマネジメントについて学習する。 資格取得にあたってはフィットネスクラブマネジメント検定3級合格を目指す。						
到達目標	①フィットネス産業について説明できる ②クラブ運営について把握している ③顧客マネジメントについて実践できる						
評価方法と基準	1)出席数75% 2)定期テスト25%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	フィットネス産業について説明できる	ノートをまとめる
2		講義	フィットネス産業について説明できる	ノートをまとめる
3		講義	健康づくりについて説明できる①	ノートをまとめる
4		講義	健康づくりについて説明できる②	ノートをまとめる
5		講義	店舗運営・フロント業務について実践できる	ノートをまとめる
6		講義	店舗運営・ジム。スタジオ。プール運営について実践	ノートをまとめる
7		講義	店舗運営・イベント企画について企画できる	ノートをまとめる
8		講義	総合クラブの施設内容について説明できる	ノートをまとめる
9		講義	顧客対応について実践できる①	ノートをまとめる
10		講義	顧客対応について実践できる②	ノートをまとめる
11		講義	組織・業務分担の考え方について説明できる	ノートをまとめる
12		講義	コミュニケーションの重要性について答えられる	ノートをまとめる
13		講義	学習した内容について答えられる	ノートをまとめる
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	キャリアプランニングⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	太田充保
	(Career Panning I)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜1限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	就職活動について目的や方法が説明できる。 自己分析ができ、自分の理想的な就職を見出すことができる。 求人票や就職ナビ、その他から就職の情報を得ることができる。 企業に電話を正しいマナーでかけることができる。 インターンシップに参加する上で必要な準備ができる。						
到達目標	就職活動の概要が説明できる。 自分の理想的な就職先を自分で見つけることができる。 見つけた就職先についてあらゆる手段を利用して情報収集を行ったり、電話や手紙などで連絡をとり見学や実習のお願い・お礼などを行うことができる。 インターンシップに必要な準備をすることができる。						
評価方法と基準	1) 出席状況60% 2) 提出物40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	就職活動の流れが説明できる	学んだことを振り返る
2		講義	自己分析ができる	学んだことを振り返る
3		講義	自己分析ができる	学んだことを振り返る
4		演習	業界研究ができる	学んだことを振り返る
5		演習	業界研究ができる	学んだことを振り返る
6		演習	求人票、就職ナビを見て就職活動ができる	学んだことを振り返る
7		演習	求人票、就職ナビを見て就職活動ができる	学んだことを振り返る
8		講義	会社への電話で問い合わせることができる	学んだことを振り返る
9		講義	会社への電話で問い合わせることができる	学んだことを振り返る
10		講義	インターンシップの流れ、手順について説明ができる	学んだことを振り返る
11		講義	インターンシップの流れ、手順について説明ができる	学んだことを振り返る
12		演習	インターンシップのノートを正しく書くことができる	学んだことを振り返る
13		演習	インターンシップのノートを正しく書くことができる	学んだことを振り返る
14		演習	インターンシップの準備(持ち物、身だしなみ、身構え、心構え)ができる	学んだことを振り返る
15		演習	インターンシップの準備(持ち物、身だしなみ、身構え、心構え)ができる	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	コンピュータ I (Computer I)		必修 選択	必修・選択必修・選択 等	年次	2	担当教員
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	Word・Excel・PowerPointの操作方法を専門学校・PCスクール・企業研修・就職支援など						
授業の学習内容	現代では業種・職種を問わず社会生活に必須となっているパソコンのスキルが求め ます。シェアが90%を超えているWindows系のOfficeを実技を中心として学び、職 用技術を身に着ける。 業務の報告書の作成、データ集計・集計結果の分析などに必要なパソコンスキルを						
到達目標	Word・Excel・PowerPointの基本操作、効率の良い使用方法、また、実務例に基づい ト・資料などの作成ができるレベルを目指す						
評価方法と基準	実技試験70% 出席点15% 平常点15%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学)
1		講義	SNSを使用する上での注意点を学ぶ	
2		実習	効率のよい入力方法を覚える	準備学習 Windowsの基本操作(日本語 ウス操作・キーボード操作)が ル・ フォルダーの扱い(作成・移動 ピーなど)ができる方が望ま 学習課題 積み重ね授業になるので、お 後は復習をし、確実に次の時 かせることが望ましい
3		実習	Wordの基本編集機能を操作できる	
4		実習	ビジネス文書の基本ルールを覚える	
5		実習	表を作成・編集できる	
6		実習	グラフィックスを挿入できる	
7		実習	印刷の設定ができる	
8		実習	四則演算ができる	
9		実習	簡単な関数や、参照方法ができる	
10		実習	表を編集し、印刷設定ができる	
11		実習	円グラフ・棒グラフを作成できる	
12		実習	複合グラフを作成できる	
13		実習	シートの操作やシート間の計算ができる	
14		試験	実技試験	
15		実習	試験解説	
準備学習 時間外学習			パソコン操作に慣れるためにも時間外にも報告書・課題などパソコンを使用して作成し	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
滋慶出版社 Word2016・Excel2016				

阿部
かざみ

前期
金曜・3限

で指導

られてい
易での活
学ぶ。

たレポート

習課題)

入力・マ
やファイ

助・コ
しい

受業終了
時間に活

てほしい

科目名 (英)	発育発達 (Growth Development)		必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義)演習・実 習等	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	山形大学医学部助教、東北大学医学部助教、専門学校教員(平成1年～)、薬学博士、博士						
授業の学習内容	発育段階に応じた身体の機能的変化や適応について学ぶ。 又、発育段階に応じた身体の機能的変化、性差や加齢に伴う体力の低下を理解し、性・年齢に適した運 でも学習する。						
到達目標	健康・体力づくりや競技力向上を目的とした運動指導を行う際には、対象者の年齢や性別など個人の特 する必要がある。本講義では、人間の出生から乳幼児期、青少年期、成人期、壮年期と言った時間の経 発育・発達と加齢による身体的変化を考慮した運動トレーニングのあり方について運動生理学的側面が さらには、アスレティックトレーナーや健康運動実践指導者等の資格取得に向けても、関連問題を解ける とする。						
評価方法と基準	定期試験(筆記試験)による評価(100%)、60点以上を合格とする						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学)
1	4月11日	講義	オリエンテーション	
2	4月25日	講義	発育・発達の特徴、形態指数、 生理学的年齢について	
3	5月2日	講義	乳児期の発育・発達の特徴	
4	5月9日	講義	乳児期の動作の獲得について	
5	5月16日	講義	幼児期の発育・発達の特徴	
6	5月23日	講義	幼児期の動作の習得について	
7	5月30日	講義	青少年期の発育・発達の特徴	
8	6月6日	講義	青少年期の動作の習熟について	
9	6月13日	講義	発育発達過程とトレーニングの関連	
10	6月20日	講義	発育発達と男女差について	
11	6月27日	講義	成人期と壮年期の形態と体力の変化	
12	7月4日	講義	老化、高齢期の形態と体力の変化	
13	7月11日	講義	高齢期における動作と姿勢の変化および 運動の重要性について	
14	8月29日	試験	筆記試験	
15	9月12日	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】「健康運動実践指導者養成用テキスト」公財 健康・体づくり事業財団
「フィットネス基礎理論」公財 日本フィットネス協会

高橋英子

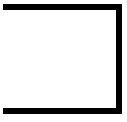
前期
火曜日
2限

:(医学)

動につい

性を考慮
過に伴う
ら学ぶ。
力を目標

習課題)



科目名 (英)	アクアエクササイズⅡ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金森千穂
	(Aquatic Exercise Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 (1)	開講区分	後期 月曜1限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	JAFA-GFIエグザミナー シナプソロジーアドバンス教育トレーナー 介護予防運動指導員 バランスコーディネーション教育トレーナー 健康運動実践指導者						
授業の学習内容	水の特性を説明できる。水を意識した動作表現ができる。 水中運動時の安全で効果的な運動強度が説明できる。 アクアビクスの指導で、音取り、インストラクションができる。						
到達目標	水中の有酸素運動として注目されるアクアビクスの実際とその特性を理解し、基本的指導法を学ぶ。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	アクアビクス体験、水中ウォーキング体験① 音取り練習、バーバル・ビジュアル	学んだことを振り返る
2		演習	アクアビクス体験、水中ウォーキング体験② 音取り、バーバル・ビジュアル、ビジュアルレビュー	学んだことを振り返る
3		演習	音取り① テスト、基本動作の確認、強度の変換要素 プールサイドで動く練習	学んだことを振り返る
4		演習	音取り② 基本動作の確認、強度の変換要素、グループ練習 プールサイドで動く練習	学んだことを振り返る
5		演習	音取り⑤ グループ練習 観察・修正・賞賛 アクアエクササイズ理論	学んだことを振り返る
6		演習	音取り⑥ グループ練習 アクアエクササイズ理論	学んだことを振り返る
7		演習	筆記試験	学んだことを振り返る
8		演習	実技試験	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	コーチング演習 I (Coaching I)	必修 選択	必修 選択	年次	2	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜3限
教員の略歴	中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得JATI認定トレーニング指導者資格取得 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」、みやぎのはら接骨院開業						
授業の 学習内容	コーチングに関する様々な手法を学び、更に知識を深めることができるよう、実演を通してコーチングを学習する。						
到達目標	将来的には幅広い年齢層に対するコーチングが必要となるが、まずは同年代(学生間)でのコーチングができるようにする。						
評価方法と 基準	実技試験 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	コーディネーショントレーニングについてのプログラミング作成ができる	
2		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(少人数グループ①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
3		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(少人数グループ②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
4		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(チーム全体指導①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
5		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(チーム全体指導②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
6		演習	競技別コーディネーショントレーニングについてのプログラミング作成ができる	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
7		演習	競技別コーディネーショントレーニングについてのプログラミング作成ができる	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
8		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(少人数グループ①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
9		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(少人数グループ②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
10		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(少人数グループ③)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
11		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(チーム全体指導①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
12		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(チーム全体指導②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
13		演習	プログラミングしたコーディネーショントレーニングを選手に指導できる(チーム全体指導③)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
14		試験	実技	
15		演習	テストの振り返り・改善点の確認	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会「ReferenceBook」				

科目名 (英)	コーチング演習Ⅱ (CoachingⅡ)	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	吉田晴彦
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜3限
教員の略歴	中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得JATI認定トレーニング指導者資格取得 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」、みやぎのはら接骨院開業						
授業の 学習内容	コーチングに関わる実際の事例をもとに、実践に向けた知識を身に付ける事ができる。 幅広い年齢層へのコーチングができるよう対象者に合わせた言葉遣いなどの指導法を学ぶ。						
到達目標	コーチング演習Ⅰで学んだ、「同世代」への指導法を活かし、子どもや高齢者など異世代へのコーチング方法について実践することができる。						
評価方法と 基準	実技試験 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	子どもへのトレーニングについて、子どもの特徴を理解しプログラミング作成ができる	
2		演習	プログラミングしたトレーニングを子どもに指導できる(少人数グループ①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
3		演習	プログラミングしたトレーニングを子どもに指導できる(少人数グループ②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
4		演習	プログラミングしたトレーニングを子どもに指導できる(チーム全体指導①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
5		演習	成人へのトレーニングについて、求められるものを理解しプログラミング作成ができる	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
6		演習	プログラミングしたトレーニングを成人に指導できる(少人数グループ①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
7		演習	プログラミングしたトレーニングを成人に指導できる(少人数グループ②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
8		演習	プログラミングしたトレーニングを成人に指導できる(大勢の人数に対しての指導①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
9		演習	高齢者へのトレーニングについて、高齢者の特徴を理解しプログラミング作成ができる	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
10		演習	プログラミングしたトレーニングを高齢者に指導できる(少人数グループ①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
11		演習	プログラミングしたトレーニングを高齢者に指導できる(少人数グループ②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
12		演習	プログラミングしたトレーニングを高齢者に指導できる(大勢の人数に対しての指導①)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
13		演習	プログラミングしたトレーニングを高齢者に指導できる(大勢の人数に対しての指導②)	ノートを復習 テキストや動画で事前確認
14		試験	実技	
15		演習	テストの振り返り・改善点の確認	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
日本スポーツ協会「ReferenceBook」				

科目名 (英)	データ分析Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	藤村真仁
	(Data AnalyticsⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 集中
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	健康運動指導士 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ選手のパフォーマンスの向上や、チームの戦術などにテクノロジーが使用されている。またそれは日々改善され、道具の開発も進んでいる。スポーツ業界で活躍する上では、スポーツとテクノロジーの関連についての感性を磨くことが大切である。この授業では、現在現場で使用されているテクノロジーに触れ、その使用方法を学んだり、それらをどう生かしていくかを考える。また、それらの活用でわかる各データを分析し、さらに改善していくためには何が必要かを考える力を身に付けていく。						
到達目標	スポーツ現場で使用している分析ソフトウェアについて 1) 概要を説明できる 2) 準備・使用ができる 3) 使用方法について人に説明できる 4) 対象へ測定・記録などができる 5) 測定したデータについて自分の考えが説明できる 6) 5)についてグループで意見交換し、考えをまとめ発表ができる						
評価方法と基準	1)課題提出・発表 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	機器の概要	資料まとめ
2		演習	機器の概要	資料まとめ
3		演習	準備・設置	資料まとめ
4		演習	準備・設置	資料まとめ
5		演習	測定方法	資料まとめ
6		演習	測定方法	資料まとめ
7		演習	測定方法	資料まとめ
8		演習	記録・数値・分析	資料まとめ
9		演習	記録・数値・分析	資料まとめ
10		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
11		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
12		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
13		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
14		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
15		演習	グループ実践 発表	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	スポーツセンシング I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	佐藤文彦
	(Sports Sensing I)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・4.5限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	株式会社DELTA パートナーアナリスト						
授業の学習内容	<p>セイバーメトリクスの入門的内容として、成立から現代までの発展の歴史を学びます。セイバーメトリクスというと、OPSやFIP、wOBA等々の近年になって開発された新しい指標をイメージする人が多いです。これらもセイバーメトリクスの成果であり産物ではありますが、授業ではこうした指標が生まれた過程を理解することに重点を置きます。</p> <p>また、「こういうことが新たに分かった」というセイバーメトリクスの知見をただ覚えるのではなく、根拠となったデータを見て理解できるようになることを目標とします。</p> <p>そして、オープンになっている野球のデータを利用し、指標の計算や必要に応じた作図ができるようになることを目指します。</p>						
到達目標	<p>目標①セイバーメトリクスの成立から現代までの発展の過程を理解する</p> <p>目標②セイバーメトリクスの発展によってもたらされた知見を覚えるのではなく、根拠となるデータを見てその意味を理解できるようになる</p> <p>目標③野球のデータを利用し、指標の計算や必要に応じた作図ができるようになる</p>						
評価方法と基準	1) 提出物 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	セイバーメトリクスを学ぶ	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
2		演習	野球の一般原理①:ピタゴラス勝率・得点期待値・得点価値	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
3		演習	野球の一般原理②:野球のセオリーの見直し	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
4		演習	野球の一般原理③:野球を取り巻く環境の影響	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
5		演習	成績を予測する	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
6		演習	野球のデータを利用する	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
7		演習	選手の評価①:選手を評価すること	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
8		演習	選手の評価②:打撃・投球	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
9		演習	選手の評価③:守備・走塁	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
10		演習	選手の評価④:総合評価	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
11		演習	選手の評価⑤:選手を評価を視覚的に表現する	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
12		演習	近年のトレンド①:トラッキングデータの導入	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
13		演習	近年のトレンド②:トラッキングデータがもたらしたもの	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
14		演習	近年のトレンド③:Baseball Savantの使い方	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
15		演習	セイバーメトリクスのこれから	講義中に紹介する書籍や文献を読んで理解を深める
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

教科書:セイバーメトリクス入門 脱常識で野球を科学する, 蛭川皓平(著), 岡田友輔(監修), 水曜社
関連図書:[プロ野球でわかる!]はじめての統計学, 株式会社DELTA 佐藤 文彦/student(著), 岡田 友輔(監修), 技術評論社

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅡ (Athletic RehabilitationⅡ)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	千葉渉
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 月曜・5限
教員の略歴	医療法人松田会 松田病院 理学療法士、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー							
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。傷害別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実践の方法を理解する。							
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③傷害別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる							
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	体幹部の解剖学的運動を理解する	体幹部の機能解剖をまとめる
2		演習	体幹部のアスレティックリハビリテーションを理解する	体幹部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
3		演習	体幹部の関節可動域測定を理解する	体幹部の関節可動域測定の方法をまとめる
4		演習	体幹部のMMTを理解する	体幹部のMMTをまとめる
5		演習	まとめ	
6		演習	頸部の解剖学的運動を理解する	頸部の機能解剖をまとめる
7		演習	頸部のアスレティックリハビリテーションを理解する	頸部のアスレティックリハビリテーションをまとめる
8		演習	頸部の関節可動域測定を理解する	頸部の関節可動域測定の方法をまとめる
9		演習	頸部のMMTを理解する	頸部のMMTをまとめる
10		演習	まとめ	
11		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案①を理解する	体幹のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
12		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案②を理解する	上肢のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
13		演習	傷害別アスレティックリハビリテーションの計画立案③を理解する	下肢のアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践をまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	アスレティックリハビリテーションⅢ (Athletic Rehabilitation Ⅲ)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	千葉 渉
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	医療法人松田会 松田病院 理学療法士、日本スポーツ協会アスレティックトレーナー							
授業の学習内容	子どもから高齢者の健康維持の増進や、競技者の競技復帰において基盤となるアスレティックリハビリテーション、各療法の知識、技術を習得する。種目運動別のアスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案、実践の方法を理解する。							
到達目標	①アスレティックリハビリテーションに必要な知識、技術を理解する ②種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムの計画、立案ができるようになる ③種目運動別アスレティックリハビリテーションプログラムを実践できるようになる							
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)レポート10% 3)出席30%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	受傷直後、急性期の対応を理解する	外傷の急性期の対応をまとめる
2		演習	亜急性期のアスレティックリハビリテーションを理解する	亜急性期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
3		演習	慢性期初期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期初期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
4		演習	慢性期中期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期中期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
5		演習	慢性期後期のアスレティックリハビリテーションを理解する	慢性期後期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
6		演習	機能回復期のアスレティックリハビリテーションを理解する	機能回復期のアスレティックリハビリテーションをまとめる
7		演習	オーバーユースによる傷害と対処を理解する	オーバーユースによる傷害と対処をまとめる
8		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例①を理解する	陸上、水泳のアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
9		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例②	サッカー、バスケットボールのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
10		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例③	バレーボール、ハンドボールのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
11		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例④	野球、ラグビーのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
12		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例⑤	格闘技、体操のアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
13		演習	種目運動別アスレティックリハビリテーションの実例⑥	スキー、スケートのアスレティックリハビリテーションの実例をまとめる
14		試験	定期試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習			授業の復習として各講義のポイントをまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	コンディショニング理論演習Ⅱ (Seminar of Strength and ConditioningⅡ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	マシン、フリーウェイト、といったレジスタンストレーニング方法や正しい運動のフォームを理解し、人に説明や指導をすることができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニング方法を習得する目的を理解する。 ・マシン、フリーウェイトを使ったレジスタンストレーニングの方法や正しい運動のフォームを理解し、指導できる。 						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記テスト ・実技 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	トレーニング方法を習得する目的と目標を説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる①	学んだことを振り返る
3		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる②	学んだことを振り返る
4		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる③	学んだことを振り返る
5		演習	自体重およびチューブを利用した、トレーニングが実践できる④	学んだことを振り返る
6		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
7		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
8		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる③	学んだことを振り返る
9		演習	フリーウェイトを活用した各上肢および下肢の種目が説明・実践できる④	学んだことを振り返る
10		演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる①	学んだことを振り返る
11		演習	マシンを活用した上肢および下肢の種目が説明・実践できる②	学んだことを振り返る
12		演習	各トレーニング種目が説明・指導できる①	学んだことを振り返る
13		演習	各トレーニング種目が説明・指導できる②	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	トレーニング科学 (Training Science for Exercise and Sport)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	沼田尚
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	山形大学大学院教育学研究科修了、健康運動指導士 JATI-ATI						
授業の学習内容	身体トレーニングは、目的、年齢により方法論が変わる。科学的根拠に基づく適切な運動プログラムの作成と指導方を学ぶ。						
到達目標	目的、年齢に応じた筋力トレーニングを生理学的知識をもとに計画することができる。						
評価方法と基準	1) 筆記試験100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	トレーニング総論について説明できる		講義の復習
2		講義	筋力トレーニングの効果とプログラム作成について説明できる		講義の復習
3		講義	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成について説明できる		講義の復習
4		講義	スピード向上トレーニングの理論とプログラムの作成について説明できる		講義の復習
5		講義	持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成について説明できる		講義の復習
6		講義	柔軟性向上トレーニング及びウォームアップとクールダウンの理論とプログラムの作成について説明できる		講義の復習
7		講義	特別な対象のためのトレーニングプログラム、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム作成と実際について説明できる		講義の復習
8		講義	筋力トレーニングの実際について説明できる		講義の復習
9		講義	パワー向上トレーニングの実際について説明できる		講義の復習
10		講義	持久力向上トレーニングの実際について説明できる		講義の復習
11		講義	スピード向上トレーニングの実際について説明できる		講義の復習
12		講義	柔軟性トレーニング及びウォームアップの実際について説明できる		講義の復習
13		講義	トレーニング効果の測定と評価の実際、測定データの活用とフィードバックの実際について説明できる		講義の復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる		自主採点
15		講義	学習した内容の問題に答えられる		試験内容の復習
準備学習 時間外学習			復習ノートの作成		
【使用教科書・教材・参考書】 □					

科目名 (英)	スポーツ内科学	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	佐藤将人
	(Applied Sports Medicine)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 集中
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	SUGAR 代表 / 医師 / 中小企業診断士 / 労働衛生コンサルタント / 日本スポーツ協会スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ選手における内科的疾患を理解し、その対処法を身につけるとともに、感染症に対する対応策を説明ができるようになる。また、内科的メディカルチェックについても理解し、説明ができるようになる。						
到達目標	内科疾患などを理解した上で、その疾患に対し配慮ができる運動処方などを作成し、さらにその処方に基づいた指導を行った際の評価方法などを考えることができるようになる。また、内科的疾患などにおける救急時の対応方法、スポーツ医学を取り巻く社会問題などについても理解する。						
評価方法と基準	各授業時間におけるテーマに対する発表内容(出席20%)、内科疾患を理解するうえでの定期筆記試験(60%)及び自らテーマを決めて発表する研究発表会の内容(20%)などを総合的に判定する。時間外実習として、メディカルチェックとしての運動負荷試験を見学し、その目的と流れを理解する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	呼吸循環器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
2		講義	消化器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
3		講義	血液疾患、腎臓泌尿器系疾患について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
4		講義	感染症に対する対応策について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
5		講義	血液感染症、皮膚感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
6		講義	ウイルス性結膜炎およびその他の感染症について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
7		講義	オーバートレーニング症候群について説明できる	プレゼン準備
8		講義	突然死について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
9		講義	過換気症候群について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
10		講義	高所、低酸素環境下、暑熱環境下、低温環境下での身体への影響について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
11		講義	時差および海外遠征時における諸問題について説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
12		講義	内科的メディカルチェックおよびドーピングコントロールについて説明できる	次回のテーマにおける症例について事前に考察しておく
13		講義	女性、高齢者のスポーツ医学について説明できる	プレゼン準備
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		講義・発表	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習			運動負荷試験の見学	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スポーツ医学Ⅱ (Sports Medicine Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	佐藤将人
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜4限
教員の略歴	SUGAR 代表 / 医師 / 中小企業診断士 / 労働衛生コンサルタント / 日本スポーツ協会スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ外傷・障害についての病体、発生機序、診断方法、画像診断、徒手検査について理解し習得することが出来るようにする。また、年齢、性別によるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。						
到達目標	アスリートのメディカルチェックをして、適性について説明ができる。病名を把握し、それに対してのアスレティック・リハビリテーションを施行できる。						
評価方法と基準	筆記によるテスト。授業中質問に答えることが出来る。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	運動器系の解剖と機能について説明できる	配布資料の予習・復習
2		講義	上肢のスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
3		講義	上肢のスポーツ外傷・障害の病態について説明できる	配布資料の予習・復習
4		講義	上肢のスポーツ外傷・障害の発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
5		講義	上肢のスポーツ外傷・障害の診断方法について説明できる	配布資料の予習・復習
6		講義	上肢のスポーツ外傷・障害の画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
7		講義	上肢のスポーツ外傷・障害の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
8		講義	体幹のスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
9		講義	体幹のスポーツ外傷・障害の病態について説明できる	配布資料の予習・復習
10		講義	体幹のスポーツ外傷・障害の発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
11		講義	体幹のスポーツ外傷・障害の診断方法について説明できる	配布資料の予習・復習
12		講義	体幹のスポーツ外傷・障害の画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
13		講義	体幹のスポーツ外傷・障害の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	スポーツ心理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	千葉陽子
	(Sports Psychology Ⅱ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 金曜・3限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	公認心理士 スポーツメンタルトレーニング指導士						
授業の学習内容	スポーツの指導者に必要とされる心理学の基礎的な知識とその知識を指導場面で活用する方法について学ぶ。また、スポーツ領域における心理的スキルについて学習する。選手やチーム状況に応じた心理的スキルのトレーニング方法を考えられることを目指して、心理的スキルの評価方法や介入指導のあり方について学ぶ。						
到達目標	目標①スポーツ領域の指導者に必要な心理学の知識について説明することができる 目標②指導場面で心理学の知識を活用する方法について説明することができる 目標③スポーツ領域における心理的スキルについて説明することができる 目標④指導場面に応じた心理的スキルのトレーニング方法について考えることができる						
評価方法と基準	1) 定期試験60%, 2) レポート30%, 3) 平常の学習状況10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「スポーツ心理学とは」について説明できる	配布資料の振り返りレポート
2		講義	競技者に必要な心理的スキルについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
3		講義	「やる気」はどのようにして高めればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
4		講義	競技者に必要な「よい緊張感」はどのようにしてつくるのかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
5		講義	集中力はどのようにして高めるのかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
6		講義	自信を高めるためにはどのようなことをすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
7		講義	競技の作戦はどのようにしてトレーニングすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
8		講義	競技前の心理的準備や競技後の評価はどのようにすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
9		講義	チームづくりに必要な心理的要因は何かについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
10		講義	競技スポーツではどのような介入指導をすればよいかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
11		講義	スポーツ技術獲得の心理的課題は何かについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
12		講義	スポーツで心の健康は高められるかについて説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
13		講義	スポーツ現場における心理的評価の方法について説明できる	配布資料の確認、振り返りレポート
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	試験の振り返り
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	試験問題解説をもとにした振り返りレポート

準備学習 時間外学習

到達目標を達成するためには、講義に参加するだけでなく、事前に配布する資料を読んで予習しておくこと、資料をもとに講義内容を自分の経験と関連づけてより深く理解するための振り返りが必要である

【使用教科書・教材・参考書】

リファレンスブック

公認アスレティックトレーナー専門科目ワークブック スポーツ科学

科目名 (英)	測定と評価 I (Movement Screening and Assessment I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	体力の構成要素、その検査、測定と評価方法を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の構成要素を理解し、その測定を実施できる。 ・新体力テストの測定方法を理解し、評価、フィードバックができる。 ・スポーツ動作を分析し、パフォーマンス向上に役立てられる。 ・統計を理解、評価し、そのデータに基づいた運動指導を行うことができる。 						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	体力の構成要素について説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	有酸素能力の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
3		演習	有酸素能力の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
4		演習	敏捷性の検査目的と意義について説明できる	学んだことを振り返る
5		演習	敏捷性の測定および評価について説明できる	学んだことを振り返る
6		演習	スポーツ動作の観察および分析方法について説明できる	学んだことを振り返る
7		演習	歩行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
8		演習	走行動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
9		演習	切り返し動作による障害メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
10		演習	跳動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
11		演習	投動作による障害発生メカニズムについて説明できる	学んだことを振り返る
12		演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる①	学んだことを振り返る
13		演習	コンタクトスポーツによる障害発生メカニズムについて説明できる②	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	測定と評価Ⅱ	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂ひとみ
	(Movement Screening and AssessmentⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜4限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックトレーナーにとって必要とされる評価法についての意義と考え方を説明できる。また、評価による問題点の抽出から問題改善へのプロセスを理解し、説明ができる。更に、評価を進める上で必要とされる検査測定手技について実践ができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 測定、評価の意義、目的を理解し、実践できる。 身体機能の測定、評価を行い、得られたデータを分析できる。 身体機能の測定、評価で得られたデータをフィードバックできる。 						
評価方法と基準	筆記テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	評価の目的、意義および役割について説明できる	学んだことを振り返る
2		演習	機能評価方法について説明できる	学んだことを振り返る
3		演習	検査方法Ⅰ(アライメントテスト)について実践できる	学んだことを振り返る
4		演習	検査方法Ⅱ(関節可動域テスト)について実践できる	学んだことを振り返る
5		演習	検査方法Ⅲ(関節弛緩性テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
6		演習	検査方法Ⅳ(関節弛緩性テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
7		演習	検査方法Ⅴ(タイトネステストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
8		演習	検査方法Ⅵ(タイトネステストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
9		演習	検査方法Ⅶ(徒手筋力テストⅠ)について実践できる	学んだことを振り返る
10		演習	検査方法Ⅷ(徒手筋力テストⅡ)について実践できる	学んだことを振り返る
11		演習	検査方法Ⅸ(身体組成Ⅰ)について実践できる	学んだことを振り返る
12		演習	検査方法Ⅹ(身体組成Ⅱ)について実践できる	学んだことを振り返る
13		演習	機能評価に基づくコンディショニングの目標設定とプログラム立案ができる	学んだことを振り返る
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	アスレティックトレーナー講座 (Athletic Training)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	早坂 ひとみ
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	専門学校卒業後柔道整復師として勤務。柔道整復師・日本スポーツ協会アスレティックトレーナー JATI-AATI						
授業の学習内容	アスレティックパフォーマンスを維持、向上させるための外傷予防、応急処置、怪我の再発予防に備えたテーピング、ストレッチング、コンディショニングトレーニングの知識と技術を習得する。また、障害予防における応用的知識や運動プログラムの立案や指導ができる。						
到達目標	・スポーツ現場で起こりうる外傷・障害を予防するために必要なテーピング、ストレッチング、コンディショニング法などの手技の理論を理解し、実践できる。						
評価方法と基準	・筆記テスト ・実技						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	傷害予防のためのテーピングが説明できる	テキストの予習・復習
2		演習	競技種目別テーピング①が実践できる	テキストの予習・復習
3		演習	競技種目別テーピング②が実践できる	テキストの予習・復習
4		演習	競技種目別テーピング③が実践できる	テキストの予習・復習
5		演習	膝関節テーピングが実践できる	テキストの予習・復習
6		演習	足関節テーピングが実践できる	テキストの予習・復習
7		演習	肩鎖関節、前方脱臼などのテーピングが実践できる	テキストの予習・復習
8		演習	応急処置テーピングが実勢できる	テキストの予習・復習
9		演習	スポーツマッサージ①について説明・実践できる	テキストの予習・復習
10		演習	スポーツマッサージ②について説明・実践できる	テキストの予習・復習
11		演習	スポーツマッサージ③について説明・実践できる	テキストの予習・復習
12		演習	RICE処置ができる	テキストの予習・復習
13		演習	重篤な場合の判断と対応ができる	テキストの予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	
15		演習	学習した内容の問題に答えられる	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	グループエクササイズ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	金森千穂
	(Group Exercise)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 木曜・1.2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	JAFA GFI、健康運動実践指導者、シナプソロジー®アドバンス教育トレーナー、バランスコーディネーション®教育トレーナー、講師育成						
授業の学習内容	<p>集団での運動指導を行う際の、指導者の役割が説明できる。</p> <p>集団であらゆる運動を指導する際に、種目や環境、対象者に応じたウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチが実践できる。屋外での集団指導(ウォーキング・ジョギングなど)、屋内での集団指導(エアロビクスなど)を経験し、指導者の役割やポイントを説明できる。</p>						
到達目標	健康の保持増進を目的にした安全で効果的な集団への運動指導について理解し、指導ができる。						
評価方法と基準	<p>1) 筆記試験30%</p> <p>2) 実技試験30%</p> <p>3) 出席状況40%</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	グループエクササイズとは	学んだことを振り返る
2		演習	グループエクササイズの指導理論と実際① ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチング	学んだことを振り返る
3		演習	グループエクササイズの指導理論と実際② ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチング	学んだことを振り返る
4		演習	グループエクササイズの指導理論と実際③ ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチング	学んだことを振り返る
5		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑤ 屋内での集団指導	学んだことを振り返る
6		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑥ 屋内での集団指導	学んだことを振り返る
7		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑦ 屋内での集団指導	学んだことを振り返る
8		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑧ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
9		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑨ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
10		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑩ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
11		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑪ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
12		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑫ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
13		演習	グループエクササイズの指導理論と実際⑬ 屋外での集団指導	学んだことを振り返る
14		試験	試験	
15		試験	試験	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ヨガ I (Yoga I)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大和田早苗
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜3限
教員の略歴	ヨガインストラクター						
授業の学習内容	ヨガとは何かについて歴史や哲学について知識を学ぶ。 基礎的なポーズや呼吸について実践的に学ぶ。 ヨガのレッスンの流れを体験しながら、ポイントを学ぶ。 自分でレッスンを組立て、指導練習を行う。						
到達目標	ヨガとは何か説明ができる。 ヨガの基礎的なポーズや呼吸について説明ができ、実践することができる。 お客様の事を考え、ヨガのレッスンを計画し指導することができる。						
評価方法と基準	1) 実技テスト 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヨガについて	ノートにまとめる
2		演習	ポーズの種類	ノートにまとめる
3		演習	呼吸法	ノートにまとめる
4		演習	クラスづくり	ノートにまとめる
5		演習	レッスン	反復練習
6		演習	レッスン	反復練習
7		演習	誘導	反復練習
8		演習	誘導	反復練習
9		演習	実践練習	反復練習
10		演習	実践練習	反復練習
11		演習	マニュアル作成	ノートにまとめる
12		演習	ロールプレイング	反復練習
13		演習	ロールプレイング	反復練習
14		演習	ロールプレイング	反復練習
15		試験	実技テスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	スタジオプログラム	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	(Studio Program)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 木曜1,2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	JAFA GFI、健康運動実践指導者、シナプソロジー®アドバンス教育トレーナー、バランスコーディネーション®教育トレーナー、講師育成						
授業の学習内容	グループエクササイズ指導の定義や指導者の役割が説明できる。 グループエクササイズを指導する上で必要な準備ができる。また、指導の循環や、参加者のことを考えた指導が実践できる。						
到達目標	グループエクササイズができるようになるためのスタジオプログラムの基礎を学習する。						
評価方法と基準	1) 筆記試験30% 2) 実技試験30% 3) 出席状況40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	グループエクササイズ指導の定義と指導者の役割 グループエクササイズ指導とは？ インストラクターの役割と健康・体力づくり運動の条件	学んだことを振り返る
2		演習	グループエクササイズ指導の準備① グループエクササイズのプログラム作成における留意事項	学んだことを振り返る
3		演習	グループエクササイズ指導の準備② 動きの事前練習、音楽の準備、用具の準備、環境の準備、指導前の準備	学んだことを振り返る
4		演習	グループエクササイズ指導の実際① 指導の循環、コミュニケーションスキル	学んだことを振り返る
5		演習	グループエクササイズ指導の実際② 動きの学習段階、指導者の向きと立ち位置	学んだことを振り返る
6		演習	グループエクササイズ指導の実際③ ウォームアップとクールダウン	学んだことを振り返る
7		演習	グループエクササイズ指導の実際④ ウォームアップとクールダウン、安全管理	学んだことを振り返る
8		演習	指導者の動き	学んだことを振り返る
9		演習	グループエクササイズのクラス運営① ホスピタリティとリーダーシップ	学んだことを振り返る
10		演習	グループエクササイズのクラス運営② グループダイナミクス	学んだことを振り返る
11		演習	グループエクササイズのクラス運営③ 運動への動機づけ	学んだことを振り返る
12		演習	グループエクササイズのクラス運営④ 自己点検・評価(振り返りと課題)	学んだことを振り返る
13		演習	グループエクササイズフィットネスインストラクターのプロになるための心得	学んだことを振り返る
14		試験	試験	
15		演習	まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	ダンスフィットネスⅡ	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	上野唯
	(Dance FitnessⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜・2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員						
授業の学習内容	フィットネス業界では、人々が安全で楽しく継続的に運動ができるために、日々新しいダンスフィットネスプログラムが生まれている。この授業では、そのダンスフィットネスプログラムを体験しながら、その運動の意義・効果などを学習する。						
到達目標	各種ダンスフィットネスプログラムの動きができる。 また、そのエクササイズの意味や効果が説明できる。						
評価方法と基準	1)実技テスト&課題 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
2		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
3		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
4		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
5		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	振り返りと練習
6		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
7		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
8		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
9		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
10		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	振り返りと練習
11		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
12		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
13		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
14		試験	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返り
15		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	課題
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	SNS活用術 I (SNS Marketing I)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	薄井達也
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜1限
教員の略歴	2014～2024年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動							
授業の 学習内容	実際の社会で活かすためのデザイン制作アプリ「Canva」スキルを学びます。SNSの発信方法を学ぶだけでなく、再生数などの数値を見ながら、発信内容の改善の仕方も学びましょう。							
到達目標	スポーツ現場における広告・宣伝のために「Canva」内にあるテンプレートを使用して、SNSの発信の仕方を学ぶ。他にも画像アプリ、音声合成アプリの使用方法も学び、発信に活かす。							
評価方法と 基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	SNSの発信の仕方について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
2		講義	「Canva」の基本操作について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
3		講義	「画像生成アプリ」の基本操作について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
4		講義	「音声合成アプリ」の基本操作について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
5		講義	動画作成① 講義1～4回目の内容から実際にショート動画の作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
6		講義	動画作成① 講義1～4回目の内容から実際にショート動画の作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
7		講義	動画作成① 講義1～4回目の内容から実際にショート動画の作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
8		講義	動画作成① 講義1～4回目の内容から実際にショート動画の作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
9		講義	動画作成① 講義1～4回目の内容から実際にショート動画の作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
10		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
11		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
12		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
13		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
14		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
15		講義	動画作成② 効率よく動画を量産していくことを学ぶ	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	動画編集&カメラワーク I (Video Editing & Camera Techniques I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	真島一平
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜3限
教員の略歴	2008年4月～映像制作会社に勤め、2015年2月～個人事業で映像制作を行っている						
授業の学習内容	スポーツの魅力を伝えていくためのツールのひとつとして、映像の可能性を学ぶ。また実際にあらゆる映像機器を使用し撮影・編集の知識と技術を身につけ、スポーツにおける映像の活用方法を探る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な映像の知識と撮影手法・編集技術を身につけ、実践できる。 ・実際に映像を制作し、「伝える」ために大切な基礎基本と創意工夫の思考を身につける。 ・知識・技術を実生活でも活かすことができる。 						
評価方法と基準	1) 出席状況 50% 2) 実技 30%(積極性や応用性) 3) 成果物 20%(知識技術が活かしているか)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	映像の基礎知識、映像カメラの種類、実生活における映像、スポーツにおける映像	TVやSNSを学んだ内容を通して見てみる等
2		演習	映像カメラの基本操作、校内を撮影してみる	TVやSNSを学んだ内容を通して見てみる等
3		講義	映像撮影の基本ルール	目にする映像をルールに沿って見てみる等
4		演習	ルールを基にテーマを決めて学校を撮影	目にする映像をルールに沿って見てみる等
5		講義	映像編集の基本ルール	目にする映像をルールに沿って見てみる等
6		演習	ルールを基に撮影した映像を編集	目にする映像をルールに沿って見てみる等
7		講義	特殊な映像機器(ジンバル等)の知識と映像の未来	スポーツで使用されている映像機器を調べてみる
8		演習	ジンバルカメラでの撮影	スポーツで使用されている映像機器を調べてみる
9		講義	「伝える」ための映像制作実習の下準備	実際に制作するためのインプット
10		演習	「伝える」ための映像制作: 撮影	実際に制作するためのインプット
11		演習	「伝える」ための映像制作: 撮影	実際に制作するためのインプット
12		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
13		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
14		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
15		講義	制作映像の上映会と講評・教員からの質問	
準備学習 時間外学習			基本的に講義・演習に生かすためのインプット作業のみ	
【使用教科書・教材・参考書】				

都度必要な情報をまとめたテキストを配布する予定

科目名 (英)	動画編集&カメラワークⅡ (Video Editing & Camera Techniques Ⅱ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	真島一平
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜3限
教員の略歴	2008年4月～映像制作会社に勤め、2015年2月～個人事業で映像制作を行っている						
授業の学習内容	スポーツの魅力を伝えていくためのツールのひとつとして、映像の可能性を学ぶ。また実際にあらゆる映像機器を使用し撮影・編集の知識と技術を身につけ、スポーツにおける映像の活用方法を探る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な映像の知識と撮影手法・編集技術を身につけ、実践できる。 ・実際に映像を制作し、「伝える」ために大切な基礎基本と創意工夫の思考を身につける。 ・知識・技術を実生活でも活かすことができる。 						
評価方法と基準	1) 出席状況 50% 2) 実技 30%(積極性や応用性) 3) 成果物 20%(知識技術が活かしているか)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	映像の基礎知識、映像カメラの種類、実生活における映像、スポーツにおける映像	TVやSNSを学んだ内容を通して見てみる等
2		演習	映像カメラの基本操作、校内を撮影してみる	TVやSNSを学んだ内容を通して見てみる等
3		講義	映像撮影の基本ルール	目にする映像をルールに沿って見てみる等
4		演習	ルールを基にテーマを決めて学校を撮影	目にする映像をルールに沿って見てみる等
5		講義	映像編集の基本ルール	目にする映像をルールに沿って見てみる等
6		演習	ルールを基に撮影した映像を編集	目にする映像をルールに沿って見てみる等
7		講義	特殊な映像機器(ジンバル等)の知識と映像の未来	スポーツで使用されている映像機器を調べてみる
8		演習	ジンバルカメラでの撮影	スポーツで使用されている映像機器を調べてみる
9		講義	「伝える」ための映像制作実習の下準備	実際に制作するためのインプット
10		演習	「伝える」ための映像制作: 撮影	実際に制作するためのインプット
11		演習	「伝える」ための映像制作: 撮影	実際に制作するためのインプット
12		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
13		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
14		演習	「伝える」ための映像制作: 編集	実際に制作するためのインプット
15		講義	制作映像の上映会と講評・教員からの質問	
準備学習 時間外学習			基本的に講義・演習に生かすためのインプット作業のみ	
【使用教科書・教材・参考書】				

都度必要な情報をまとめたテキストを配布する予定

科目名 (英)	コンピュータデザインⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	薄井達也
	(Computer DesignⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	2014～2024年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動						
授業の 学習内容	実際の社会で活かすためのデザイン制作アプリ「Canva」スキルを学びます。綺麗なデザインの名刺・チラシにするためには、ビジネスやサービスも整理されていなければいけません。単にソフトのスキルを学ぶだけでなく、情報の整理を学びましょう。						
到達目標	スポーツ現場における広告・宣伝のために「Canva」内にあるテンプレートを使用して、学生それぞれが目的にあったチラシを作成できるようになる。また、コンピュータで創作することに慣れ、インターネット媒体や、DM、ポスター、チラシなどにおいて魅力的なデザインを考え作り出すことができる。						
評価方法と 基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	「Canva」とは どんなことをするソフトなのか？	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
2		講義	「Canva」の基本操作について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
3		講義	チラシ制作① シンプルなデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
4		講義	チラシ制作① シンプルなデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
5		講義	チラシ制作① シンプルなデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
6		講義	チラシ制作① シンプルなデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
7		講義	チラシ制作② 情報量の多いデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
8		講義	チラシ制作② 情報量の多いデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
9		講義	チラシ制作② 情報量の多いデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
10		講義	チラシ制作② 情報量の多いデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
11		講義	チラシ制作② 情報量の多いデザインのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
12		講義	チラシ制作③ オリジナルテーマでのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
13		講義	チラシ制作③ オリジナルテーマでのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
14		講義	チラシ制作③ オリジナルテーマでのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
15		講義	チラシ制作③ オリジナルテーマでのチラシ作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	コンピュータデザインⅢ	必修 選択	選択 必修	年次	2	担当教員	薄井達也
	(Computer Design Ⅲ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	2014～2024年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動						
授業の 学習内容	実際の社会で活かすためのデザイン制作アプリ「Canva」のスキルを学びます。 情報を伝わりやすく整理して綺麗なデザインのサイトにまとめましょう。						
到達目標	スポーツ現場における広告・宣伝のために「Canva」内にあるテンプレートを使用して、学生それぞれが目的に あったサイトを作成できるようになる。また、コンピュータで創作することに慣れ、インターネット媒体や、DM、ポス ター、チラシなどにおいて魅力的なデザインを考え作り出すことができる。						
評価方法と 基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	サイト制作のための基本操作について	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
2		講義	コンセプトの企画	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
3		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
4		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
5		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
6		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
7		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
8		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
9		講義	制作	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
10		講義	修正箇所の確認	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
11		講義	修正	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
12		講義	修正	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
13		講義	修正	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
14		講義	修正	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
15		講義	まとめと提出	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	プレゼンテーションスキル I (Presentation Skill I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	2	担当教員	金森千穂
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	JAFA GFI、健康運動実践指導者、シナプロジーアドバンス教育トレーナー、バランスコーディネーション教育トレーナー、講師育成						
授業の 学習内容	①相手からの質問に対し、自分の想いを短時間でまとめてわかりやすく伝えることのスキルを身につける ②卒業進級展での発表、各授業での発言、就職活動など全て ③自分の事を話せる。相手が何を聞きたいか？を理解(聴く力、読む力)し、自分の考えを届けられる人になってほしい。面接など、人と話す事を怖がらないコミュニケーション力をつけてほしい。						
到達目標	1) 人前で自分の考えをまとめ、話せるようになる 2) デリバリースキル、話の組み立てスキルが身につく、実践できる 3) 聴き手とのコミュニケーションを取りながらプレゼンテーションを行うことができる プレゼンテーションスキル、コミュニケーションスキル、文章の組み立て方を理解し、人前で話すとき活用できるようになる						
評価方法と 基準	1) 出席状況 30% 2) 授業内で行うプレゼンテーション 60% 3) 筆記試験 10% ※授業内で小テスト・制作物などを実施し加点することがある						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	自己紹介 自分の話し方の癖を知る プレゼンテーションとは何かを理解する	
2		演習	コミュニケーションスキル 文章の組み立て方 資料作成について知る	
3		演習	ホール・パート法、PREP法とは何かを知る プレゼンテーションテクニックについて知る	
4		演習	話す順番を整える デリバリースキルを知り、活用する	
5		演習	話をまとめる時に活用できる5W2H	
6		演習	プレゼンテーションしやすい環境づくり 聞き手を巻き込むプレゼンテーション 質問テクニック	
7		演習	プレゼンテーション発表会	
8		演習	前回の授業での気づき、作り直し	
9		演習	2分間プレゼンテーション(対応力)	
10		演習	試験課題発表 PPT作成 プレゼン資料作成方法	
11		演習	準備	
12		演習	準備	
13		演習	発表終了後自己フィードバック、質問に答える①	
14		演習	発表終了後自己フィードバック、質問に答える②	
15		演習	発表終了後自己フィードバック、質問に答える③ まとめ	
準備学習 時間外学習			授業内でまとめきれなかった場合、各自の準備が必要になる	
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	データ分析Ⅲ (Data Analytics Ⅲ)	必修 選択	年次	3	担当教員	松本洋平	
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	ダートフィッシュジャパンスタッフ						
授業の 学習内容	映像撮影、キャプチャー、管理、分析共有の知識とオペレーションを習得、アナリストに求められるスキルを習得、分析基礎知識を学ぶ。□						
到達目標	アナリストに必要な知識と技能を学び、競技現場でチームをサポートできる実践力を培う。ダートフィッシュソフトウェアの分析ソフトウェアを通じて、スポーツアナリストテックスを理解する。						
評価方法と 基準	単元ごとに簡単な振り返り理解度チェックを実施します。出席、課題提出状況、テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	高度な比較映像の分析	
2		演習	高度な比較映像の分析	
3		演習	高度な比較映像の分析	
4		演習	高度な比較映像の分析	
5		演習	高度な比較映像の分析	
6		演習	高度な軌跡映像の分析	
7		演習	高度な軌跡映像の分析	
8		演習	高度な軌跡映像の分析	
9		演習	高度な軌跡映像の分析	
10		演習	高度な軌跡映像の分析	
11		演習	ゲーム分析のアプローチ 基礎 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析	
12		演習	ゲーム分析のアプローチ 基礎 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析	
13		演習	ゲーム分析のアプローチ 基礎 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析	
14		演習	ゲーム分析のアプローチ 基礎 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析	
15		テスト	成果発表とテスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	スポーツセンシングⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	山野瞭
	(Sports SensingⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	アプリケーション開発・映像分析ツールを提供する会社に所属/Fリーグフットサル選手						
授業の学習内容	スポーツ現場では、テクノロジーを使用した測定・分析・評価が行われ、選手のパフォーマンス向上やチームの勝利に活かされている。そしてその技術は日々進歩している。この授業ではその機器を活用し測定や分析・評価の知識・技術を身につけていく						
到達目標	スポーツ現場で使用されている専門的な分析ツールについて人に説明でき、現場で準備・測定ができる。 また、結果をもとに分析し、選手のパフォーマンス改善のための具体的なプランが説明できる。						
評価方法と基準	1) 提出物 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
2		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
3		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
4		演習	分析とプラン	資料まとめ
5		演習	分析とプラン	資料まとめ
6		演習	分析とプラン	資料まとめ
7		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
8		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
9		演習	分析ツールを使用 準備、測定	資料まとめ
10		演習	分析とプラン	資料まとめ
11		演習	分析とプラン	資料まとめ
12		演習	分析とプラン	資料まとめ
13		演習	まとめ	資料まとめ
14		演習	まとめ	資料まとめ
15		演習	まとめ	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				



科目名 (英)	SNS活用術Ⅱ (SNS MarketingⅡ)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	3	担当教員	薄井達也
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜1限
教員の略歴	2014～2024年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動							
授業の 学習内容	SNS活用術Ⅰで学んだ、制作方法を学びましたが、SNS活用術Ⅱでは実際に発信して再生数の伸びを見たり、改善をして再度アップするといったトライアンドエラーをすることで精度を上げていきましょう。							
到達目標	スポーツ現場における広告・宣伝のために「Canva」内にあるテンプレートを使用して、SNSの発信の仕方を学ぶ。他にも画像アプリ、音声合成アプリの使用方法も学び、発信に活かす。							
評価方法と 基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%(最低10投稿)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	講義の方針について説明	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
2		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 1	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
3		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 2	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
4		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 3	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
5		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 4	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
6		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 5	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
7		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 6	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
8		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 7	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
9		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 8	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
10		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 9	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
11		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 10	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
12		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 11	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
13		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 12	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
14		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 13	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
15		講義	動画制作と発信 再生回数の確認 14	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	プレゼンテーションスキルⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	藤村真仁
	(Presentation Skill Ⅱ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 月曜1.2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	2006年4月～20017年12月までフィットネスクラブに所属 仙台医健・スポーツ専門学校専任教員						
授業の学習内容	スポーツ関連のビジネスをする上で、相手を惹きつけるために必要な話し方について考えを深めていく。あらゆるプレゼンテーションツールを各現場に合わせて魅力的なものに作成していくスキルを身につける。						
到達目標	1)他者のプレゼンテーションみて魅力的な方法について自分の考えを説明することができる 2)プレゼンテーションツールを活用し、プレゼンテーションすることができる 3)自分のプレゼンテーションについて振り返り、改善することができる						
評価方法と基準	1)課題提出・発表 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
2		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
3		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
4		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
5		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
6		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
7		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
8		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
9		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
10		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
11		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
12		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
13		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
14		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
15		演習	他者のプレゼンテーションと気づき プレゼンテーション作成・実践・改善	資料まとめ
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	フィットネスプログラム演習 I (Practice of Fitness Program I)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	3	担当教員	邊見和真
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜3限
教員の略歴	フリーランストレーナー						
授業の学習内容	1・2年次に学んできた座学を現場で活かすため、実際に模擬セッションを行いながら、さまざまなクライアントや環境への解決策など60分以上のセッション・メニュー構成をできるようにする。						
到達目標	・パーソナライズされたセッション構成ができる						
評価方法と基準	1)出席状況 60% 2)最終課題 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	カウンセリング理論	学んだことを振り返る
2		講義	エアロビクス・ストレッチ理論	学んだことを振り返る
3		講義	プログラムデザイン	学んだことを振り返る
4		講義	ファンクショナル・コアトレーニング	学んだことを振り返る
5		講義	コーディネーショントレーニング	学んだことを振り返る
6		講義	レジスタンストレーニング実践(BIG3)	学んだことを振り返る
7		講義	レジスタンストレーニング(背部)	学んだことを振り返る
8		講義	ケーススタディ(栄養編)	学んだことを振り返る
9		講義	ケーススタディ(睡眠)	学んだことを振り返る
10		講義	ケーススタディ(疲労)	学んだことを振り返る
11		講義	解剖生理学(筋・神経系)	学んだことを振り返る
12		講義	ケーススタディ(臀部)	学んだことを振り返る
13		講義	ケーススタディ(下肢)	学んだことを振り返る
14		講義	プログラムデザイン(応用)	学んだことを振り返る
15		講義	前期まとめ	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習			テキスト及び配布資料を読んで内容をまとめておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 授業に応じて資料配布				

科目名 (英)	フィットネスプログラム演習Ⅱ (Practice of Fitness Program Ⅱ)		必修 選択	コース 必修 /選択	年次	3	担当教員	邊見和真
	学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 水曜4限
教員の略歴	フリーランストレーナー							
授業の学習内容	1・2年次・前期に学んできた座学を現場で活かすため、実際に模擬セッションを行いながら、さまざまなクライアントや環境への解決策など60分以上のセッション・メニュー構成をできるようにする。							
到達目標	・パーソナライズされたセッション構成ができる							
評価方法と基準	1)出席状況 60% 2)最終課題 40%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	筋膜連結(SFL・SBL)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
2		講義	筋膜連結(LL・DFL)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
3		講義	筋膜連結(SAL・DAL)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
4		講義	筋膜連結(FL・SL)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
5		講義	Joint by Joint theoryを用いたトレーニング	学んだことを振り返る
6		講義	運動連鎖を用いたトレーニング	学んだことを振り返る
7		講義	局所解剖学(胸部)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
8		講義	局所解剖学(腹部)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
9		講義	局所解剖学(上肢部)を用いたトレーニング・ストレッチ	学んだことを振り返る
10		講義	食事学を用いた栄養指導	学んだことを振り返る
11		講義	ケーススタディ(アスリート)	学んだことを振り返る
12		講義	ケーススタディ(肩こり)	学んだことを振り返る
13		講義	ケーススタディ(腰痛)	学んだことを振り返る
14		講義	ケーススタディ	学んだことを振り返る
15		講義	後期まとめ	学んだことを振り返る
準備学習 時間外学習			テキスト及び配布資料を読んで内容をまとめておくこと	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	スポーツ医学Ⅲ (Sports Medicine Ⅲ)	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	3	担当教員	佐藤将人
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 集中
教員の略歴	SUGAR 代表 / 医師 / 中小企業診断士 / 労働衛生コンサルタント / 日本スポーツ協会スポーツドクター						
授業の学習内容	スポーツ外傷・障害についての病態、発生機序、診断方法、画像診断、徒手検査について理解し習得することが出来るようにする。また、年齢、性別によるスポーツ外傷・障害の特徴を理解する。						
到達目標	アスリートのメディカルチェックをして、適性について説明ができる。病名を把握し、それに対してのアスレティック・リハビリテーションを施行できる。						
評価方法と基準	筆記によるテスト。授業中質問に答えることが出来る。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	下肢のスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
2		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の病について説明できる態	配布資料の予習・復習
3		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
4		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の診断方法について説明できる	配布資料の予習・復習
5		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
6		講義	下肢のスポーツ外傷・障害の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
7		講義	重篤な外傷の病態、発生機序について説明できる	配布資料の予習・復習
8		講義	重篤な外傷について説明できる	配布資料の予習・復習
9		講義	重篤な外傷の診断方法、画像診断について説明できる	配布資料の予習・復習
10		講義	重篤な外傷の徒手検査について説明できる	配布資料の予習・復習
11		講義	年齢、性別によるスポーツ外傷・障害について説明できる	配布資料の予習・復習
12		講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる①	配布資料の予習・復習
13		講義	整形外科的メディカルチェックについて説明できる②	配布資料の予習・復習
14		試験	学習した内容の問題に答えられる	配布資料の予習・復習
15		講義	学習した内容の問題に答えられる	配布資料の予習・復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	ヨガⅡ	必修 選択	選択 必修	年次	3	担当教員	大和田早苗
	(Yoga Ⅱ)	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 水曜3限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	ヨガインストラクター						
授業の 学習内容	ヨガの練習を一人で自立して行えるようになる。 ヨガを練習を継続して行うことで起こる心身の変化を体験する。						
到達目標	「太陽礼拝」をマスターする。 ヨガを行う上で必要な柔軟性や、呼吸法を習得する。						
評価方法と 基準	1) 実技テスト 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ヨガについて、授業の目的の理解	
2		演習	ヨガクラスの受講(体づくりとヨガ体験)	反復練習
3		演習	ヨガクラスの受講(体づくりとヨガ体験)	反復練習
4		演習	ヨガクラスの受講(体づくりとヨガ体験)	反復練習
5		演習	呼吸法	反復練習
6		演習	太陽礼拝の解説と実践	ノートにまとめる
7		演習	太陽礼拝の解説と実践	ノートにまとめる
8		演習	太陽礼拝の解説と実践	ノートにまとめる
9		演習	柔軟性向上	反復練習
10		演習	柔軟性向上	反復練習
11		演習	柔軟性向上	反復練習
12		演習	太陽礼拝の実践	反復練習
13		演習	太陽礼拝の実践	反復練習
14		演習	テスト前のチェック	
15		試験	実技テスト	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				



科目名 (英)	ダンスフィットネスⅢ	必修 選択	コース 必修 /選択	年次	3	担当教員	上野唯
	(Dance FitnessⅢ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期 火曜・2限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	仙台医健・スポーツ専門学校卒・専任教員						
授業の学習内容	フィットネス業界では、人々が安全で楽しく継続的に運動ができるために、日々新しいダンスフィットネスプログラムが生まれている。この授業では、そのダンスフィットネスプログラムを体験しながら、その運動の意義・効果などを学習する。						
到達目標	各種ダンスフィットネスプログラムの動きができる。 また、そのエクササイズの意味や効果が説明できる。						
評価方法と基準	1)実技テスト&課題 100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
2		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
3		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
4		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
5		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	振り返りと練習
6		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
7		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
8		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
9		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
10		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	振り返りと練習
11		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導計画	振り返りと練習
12		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
13		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返りと練習
14		試験	ダンスフィットネスプログラムの指導実践	振り返り
15		演習	ダンスフィットネスプログラムの指導振り返り・改善	課題
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				



科目名 (英)	スポーツマネジメントⅡ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大隅飛鳥
	(Sports ManagementⅡ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜4限
学科・コース	プロスポーツトレーナー科						
教員の略歴	順天堂大学スポーツ科学部卒 フィットネスクラブマネジメント検定1級 みちのくフィットネスクラブクラブ協会副会長						
授業の 学習内容	小規模ジムやスタジオのの商圈分析やコンセプト、事業計画書の書き方など学び、将来自分の理想の店舗を出店する際に正しい店舗出店の仕方を学ぶため。また独立でのメリット・デメリットも学びながら正しいフィットネス業界のキャリアを踏んでいけるようにしていく。						
到達目標	在学期間で、将来の夢をかなえるための有意義な時間の過ごし方を理解し実践できる。 1) 商圈分析ツールでそれぞれのエリアの人口を比較できる 2) 自分が出店したい店舗のコンセプトを決める 3) 事業計画書を作成し、融資申請できるレベルの内容まで作成できるようにする						
評価方法と 基準	1) 出席状況 30% 2) 筆記試験 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	フィットネス業界について 様々な業態店舗について説明できる	
2		講義	キャリアアップ、ルネサンスの平均年収について述べる事ができる	ノートを復習□
3		講義	店舗運営 フィットネス業界の様々な数値について述べる事ができる	ノートを復習□
4		講義	ジムエリアのレイアウトについて述べる事ができる	ノートを復習□
5		講義	さまざまなジム経営者の動画を見てジム経営について	ノートを復習□
6		講義	初期定着、会員継続の仕組みづくりについて説明できる	ノートを復習□
7		講義	総合フィットネスクラブ、24ジム見学をし、サービス内容を説明できる	ノートを復習□
8		講義	マーケティング 商圈分析について実践できる	ノートを復習□
9		講義	エリア別人口の算出の仕方を実践できる	ノートを復習□
10		講義	WEBマーケティングについて説明できる	ノートを復習□
11		講義	営業管理 様々なジム商品について説明できる	ノートを復習□
12		講義	業態別の収支構造について説明できる	ノートを復習□
13		講義	海外のフィットネス事情について説明できる	ノートを復習□
14		筆記試験		
15		講義	テストの振り返り まとめ	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				

科目名 (英)	制作演習 I (Production Practice I)	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	薄井達也
学科・コース	プロスポーツトレーナー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期 火曜1限
教員の略歴	2014～2024年仙台を中心にイラストレーター・デザイナーとして活動						
授業の 学習内容	「ブランディング」という視点から、2年生までに個々に学んできた、ロゴ、チラシ、グッズ、サイトなどひとつのブランドとして制作する。						
到達目標	「Canva」を中心に使用して、想定したビジネスプランのブランディングを行う。よりリアルにそのビジネスを具現化し、実現可能なレベルの創作物にする。						
評価方法と 基準	1) 出席状況 60% 2) 提出物 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	ビジネスコンセプトの考案	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
2		講義	ロゴの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
3		講義	ロゴの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
4		講義	ロゴの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
5		講義	ロゴの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
6		講義	ロゴが使用されたグッズの制作(会員証、名刺、チラシ)	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
7		講義	ロゴが使用されたグッズの制作(会員証、名刺、チラシ)	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
8		講義	ロゴが使用されたグッズの制作(会員証、名刺、チラシ)	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
9		講義	ロゴが使用されたグッズの制作(会員証、名刺、チラシ)	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
10		講義	ロゴが使用されたグッズの制作(会員証、名刺、チラシ)	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
11		講義	サイトの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
12		講義	サイトの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
13		講義	サイトの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
14		講義	サイトの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
15		講義	サイトの作成	学んだことを振り返る・各自ブラッシュアップ□
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				